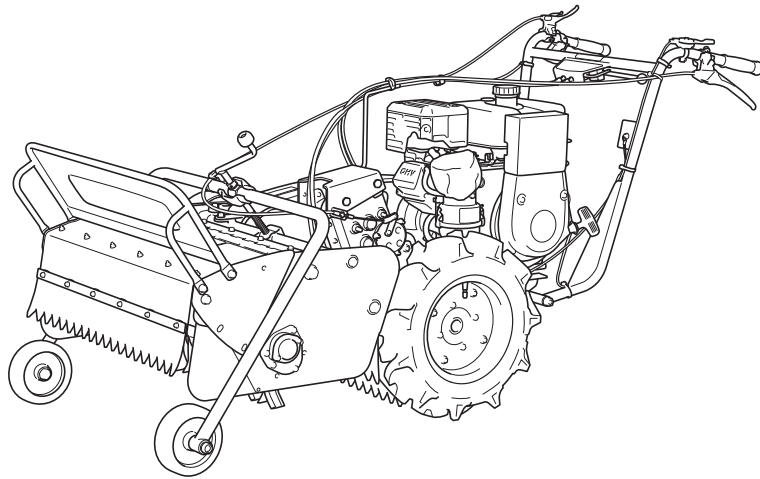


HMA72

ハンマーナイフモア

取扱説明書



Serial No. HMA72 : 20001-

「必読」
ご使用前に必ず本書をお読みください。

BARONESS[®]
Quality on Demand

Ver.1.0

ごあいさつ

このたびは、バロネス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本書は、この製品の正しい取り扱い方法と調整方法、また点検方法について説明しています。
いつまでも優れた性能を発揮させ、安全な作業をしていただきますようお願いいたします。

本書を読んで製品の使用方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑のかからない、適切な方法でご使用ください。

この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

整備を行う場合は専門知識のある要員によって作業を行ってください。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店、販売店または、弊社にお問い合わせください。


お問い合わせの際には、必ずこの製品の型式と製造番号をお知らせください。

この製品を貸与または、譲渡する場合はこの製品と一緒に本書をお渡してください。

株式会社 共栄社

危険警告記号の説明

本書では安全に関する重要な取り扱い上の注意事項について、危険警告記号を使用し、次のように表示しています。

 696cq5-001	危険警告記号
<p>この記号は「危険」「警告」「注意」に関する項目を意味します。 いずれも安全確保のための重要事項が記載してありますので、注意してお読みいただき、十分理解してから作業を行ってください。 これらを遵守されない場合、事故につながるおそれがあります。</p>	
<p>⚠ 危険 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。</p> <p>⚠ 警告 その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示しています。</p> <p>⚠ 注意 その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのある、または物的損傷の発生が予測されるものを示しています。</p> <p>重要 製品の構造などの注意点を示しています。</p>	

はじめに

使用上の注意

注意

本書記載事項は、改良のため予告なしに変更する場合があります。

部品交換を行う場合は、必ず「BARONESS 純正部品」または「弊社指定部品」を使用してください。

純正部品以外の部品を使用して生じた不具合については責任を負いかねます。

この製品を使用する前に下記の取扱説明書を必ずお読みいただき、内容を十分にご理解ください。

- ・ バロネス製品の取扱説明書
- ・ エンジンの取扱説明書

使用目的

この製品は、雑草刈り作業を目的とした機械です。この目的以外で使用したり、機械の改造をしないでください。

この製品をその他の目的で使用したり、改造すると大変危険であり、機械を損傷する原因にもなります。

安全	Page 1-1
安全上の注意事項	Page 1-2
廃棄	Page 2-1
リサイクルおよび廃棄処分	Page 2-2
製品概要	Page 3-1
仕様	Page 3-2
各部の名称	Page 3-4
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-5
取り扱い説明	Page 4-1
使用前の準備	Page 4-2
使用前の点検	Page 4-2
締め付けトルク	Page 4-8
使用前の調整	Page 4-11
エンジン始動・停止方法	Page 4-12
各部の操作方法	Page 4-15
移動	Page 4-20
刈り込み	Page 4-20
運搬	Page 4-21
メンテナンス	Page 5-1
メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンス時の機械姿勢	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-3
注油	Page 5-5
ジャッキアップ	Page 5-6
メンテナンスの方法	Page 5-7
長期保管	Page 5-16

安全上の注意事項	Page 1-2
トレーニング	Page 1-2
運転の前に	Page 1-2
運転操作	Page 1-3
保守と保管	Page 1-4

誤使用や整備不良は負傷や死亡事故につながります。

⚠ 危険

この製品は、安全な取り扱いができるように設計されており、工場出荷時には十分な試運転や検査を重ねた上で出荷しております。事故防止のための安全装置は装備しておりますが、これらは適切な操作、取り扱い、および日常の管理方法が大きく影響します。この製品を適切に使用または管理しない場合、人身事故につながるおそれがあります。以下の安全指示に従い、安全な作業を行ってください。

安全上の注意事項

トレーニング

1. 本書や関連する機器の説明書をよくお読みください。各部の操作方法や警告ラベル、本機の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
2. オペレーター、整備士が日本語を読めない場合には、オーナーの責任において、本書の内容を十分に説明してください。
3. すべてのオペレーター、整備士に適切なトレーニングを行ってください。トレーニングはオーナーの責任です。
4. 子供（18才未満）や正しい運転知識の無い方には機械を操作させないでください。地域によっては機械のオペレーターに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
5. オーナーやオペレーターは自分自身や他の安全に責任があり、オーナーやオペレーターの注意によって事故を防止することができます。
6. 人身事故や器物損壊などについてはオーナー、オペレーター、整備士が責任を負うものであることを忘れないでください。
7. 本書には、必要に応じて追加の安全情報が記載されています。
8. 通常の操作位置から機械の左右を決めています。

運転の前に

1. 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するには、どのようなアクセサリーやアタッチメントが必要かを判断してください。メーカーが認めた以外のアクセサリーやアタッチメントを使用しないでください。

2. 作業には安全靴と長ズボン、ヘルメット、保護メガネ、マスク、および聴覚保護具（イヤーマフ）を着用してください。長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
3. 機械が使われる区域を点検し、小石、玩具、および針金のような、機械がはね飛ばす可能性のあるすべての物体を取り除いてください。
4. 子供を芝草刈作業場に入れないでください。オペレーター以外の大人の監視下に置いてください。
5. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

燃料は引火性が高いので、以下の注意を必ず守ってください。

- [1] 燃料は専用の容器に保管する。
- [2] 給油はエンジンを始動する前に行う。エンジンの運転中やエンジンが熱いときに燃料タンクのフタを開けたり給油したりしない。
- [3] 給油は必ず屋外で行い、給油中は火気厳禁とする。喫煙しない。
- [4] 燃料がこぼれたらエンジンを始動せずに、機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
- [5] 燃料タンクや燃料容器のフタは確実に閉める。
6. 運転操作装置（ハンドル、ペダル、レバーなど）、安全装置、防護カバーが正しく取り付けられ、正しく機能しているか点検してください。これらが正しく機能しないときには作業を行わないでください。
7. ブレーキの効きが悪かったり、ハンドルに著しいガタがある場合は、必ず調整、修理してから使用してください。
8. マフラーが破損したら必ず交換してください。
9. 使用前にナイフ、ナイフの取り付けピン、ナイフ軸 Assy を目視で点検してください。バランスを狂わせないようにするために、損傷したナイフとボルトはセットで交換してください。

運転操作

1. 有毒な一酸化炭素ガスがたまる可能性のある閉め切った場所では、エンジンを作動しないでください。
2. 十分に明るい場所でのみ運転し、穴や、隠れた危険を避けるようにしてください。
3. エンジンを始動する前に作業部への駆動をすべて遮断し、走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかけてください。
4. 本書の指示に従い、刃から足を十分離れた状態でエンジンを始動させてください。
5. (傾斜地においては) できるだけ、濡れた草地での運転を避けてください。
6. 傾斜地では常に足元に注意してください。
7. 走らないでください。
8. 「安全な斜面」はありません。
草の生えたの斜面での作業には特に注意が必要です。
転倒を防ぐために
 - [1] 極端に急な傾斜地では作業をしない。
 - [2] 斜面では急停止、急発進しない。
 - [3] 走行クラッチがある機械はクラッチをゆっくりつなぐ。
また坂を下る場合は、走行ギヤを入れた状態にする。
 - [4] 斜面の走行や旋回は低速で行う。
 - [5] 凸凹や穴、隠れた障害物がないか常に注意する。
 - [6] 斜面を横切りながらの作業は、そのような作業のために設計された機械以外では絶対に行わない。
 - [7] 決められた角度以上の傾斜地または転倒やスリップの危険がある場所では、絶対に作業を行わない。
9. ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のままで運転しないでください。
10. 防護カバーを上げたまま、または取り外したり、改造して運転しないでください。
11. エンジンのガバナーの設定を変えたり、エンジンの回転速度を上げすぎたりしないでください。
エンジンを規定以上の速度で運転すると、人身事故を起こす危険が増大します。
12. 高温部に触れないように注意してください。
13. 運転位置を離れる場合は次を厳守してください。
 - [1] 平らな場所に停止する。
 - [2] 作業部の動力を遮断する。
 - [3] 走行シフトをニュートラルにして、駐車ブレーキをかける。
 - [4] エンジンを止める。
14. 以下のような状況になった場合には、エンジンを止めてください。
 - [1] 燃料を給油するとき。
 - [2] 刈高を調整するとき。
ただし運転位置から遠隔操作で行える場合は除きます。
 - [3] 詰まりを取り除くとき。
 - [4] 機械の点検、清掃、整備作業などをするとき。
 - [5] 機械を離れるとき。
 - [6] 機械に異物がぶつかったり、異常な振動を感じたとき。
機械を再始動する前に機械の損傷を点検・修理してください。
15. 作業部や回転部に手足を近づけないでください。
16. エンジン作動中は、機械を持ち上げたり、運んだりしないでください。
17. 後進するときは、下方と後方の安全に十分注意してください。
18. 周囲に人がいるとき、特に子供やペットがいるときは、絶対に作業を行わないでください。
19. 旋回するとき、道路を横切るときは減速し、周囲に十分注意してください。
20. 草地以外の場所では、刃の回転を停止してください。
21. 移動走行中や作業を休んでいるときは、作業部への駆動を止めてください。
22. 作業機などを使用する場合、排出方向などに気をつけ、人に向けないようにしてください。
また作業中は機械に人を近づけないでください。
23. アルコールや薬物を摂取した状態で運転をしないでください。
24. 本機をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、本機の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

25. 本機を輸送する場合は、燃料コックは閉じてください。
26. 見通しの悪い曲がり角、植え込みや立ち木などの陰では安全に十分注意してください。
27. わき見運転、手放し運転はしないでください。
28. エンジン停止中はスロットルを「LOW」（かめマーク側）にしておいてください。
燃料コックが付いている場合は、燃料コックを閉じてください。
29. 落雷のおそれがあるときは、機械を動かさないでください。

保守と保管

1. 修理・調整・清掃作業の前には、平らな場所で機械を停止し、作業部の駆動を遮断し、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、念のために点火プラグからワイヤーを抜いてください。
また、機械のすべての動きが完全に停止したことを確認し作業を行ってください。
2. 火災防止のため、エンジンやマフラー、燃料タンクの周囲、作業部の周囲、および駆動部に、余分なグリース、草や木の葉、埃などがたまらないよう注意してください。
オイルや燃料がこぼれた場合はふき取ってください。
3. 閉めきった場所に本機を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
4. 本機にシートをかけて保管する場合は、過熱部分が十分冷めていることを確認してから行ってください。
5. 炎や火花がある屋内では、タンクに燃料が入った状態で保管しないでください。
6. 機械の保管・搬送時には、燃料コックが付いている機械は、燃料コックを閉じてください。
7. 炎の近くに燃料を保管しないでください。
8. 絶対に訓練を受けていない人に機械を整備させないでください。
9. 点検・整備はマフラーやエンジンが冷めてから行ってください。
10. 調整、整備などに必要な工具類は適切な管理をし、目的に合った工具を正しく使用してください。
11. 機械をジャッキアップする場合は、ジャッキスタンドなどを使用し、確実に支えてください。
12. 部品を取り外すときなど、スプリングや油圧などの圧力が一気に解放される場合がありますので、注意してください。
13. 配線などが接触したり、被覆のはがれがないように注意してください。

14. ナイフの点検を行うときには、安全に十分注意してください。
 - [1] 必ず手袋を着用してください。
 - [2] 悪くなったナイフは必ず交換してください。
 - [3] 絶対に曲げ伸ばしや溶接で修理しないでください。
15. 可動部に手足を近づけないでください。
エンジンが作動したままで調整作業をしないでください。
16. すべての部品が良好な状態にあるか点検を怠らないでください。
消耗したり破損した部品やラベルは安全のため早期に交換してください。
17. 常に機械全体の安全を心掛け、ナットやボルト、ねじ類が十分締まっているかを確認してください。
18. 燃料タンクの清掃が必要になった場合は、屋外で作業を行ってください。

リサイクルおよび廃棄処分Page 2-2

リサイクルについて Page 2-2

廃棄処分についてPage 2-2

機
密

リサイクルおよび廃棄処分

リサイクルについて

バッテリーなどは環境保護および資源の有効活用のためにリサイクルされることを推奨します。
また、地域によっては法律により義務付けられています。

廃棄処分について

整備、修理などの作業で出た廃棄物については、地域の法律に従って適切に処分してください。
(例：廃油、不凍液、ゴム製品、配線など)

仕様	Page 3-2
仕様表	Page 3-2
変速と速さの関係	Page 3-3
各部の名称	Page 3-4
機番プレート	Page 3-4
警告ラベルと指示ラベル	Page 3-5
警告ラベルと指示ラベルについて	Page 3-5
警告ラベル・指示ラベル貼付位置	Page 3-5
警告ラベル・指示ラベルの説明	Page 3-6

製品概要

仕様

仕様表

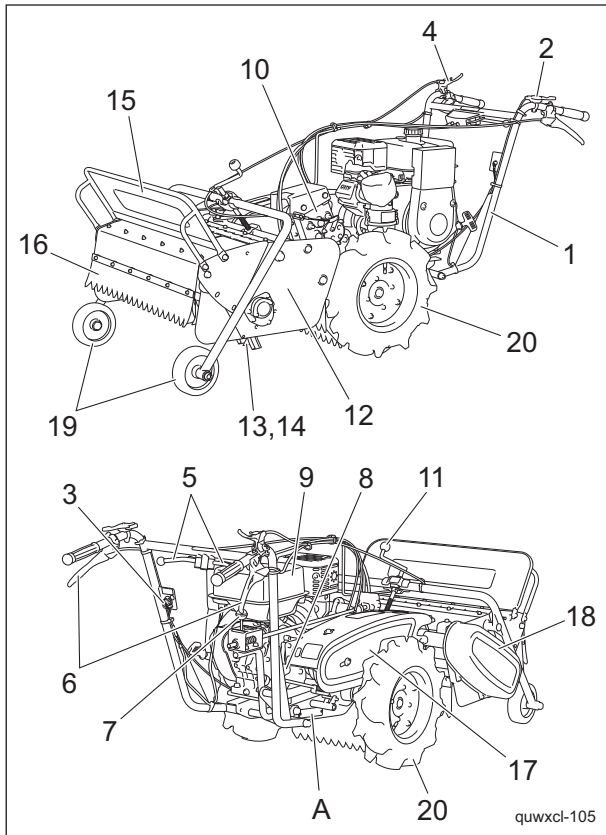
型式	HMA72		
寸法	全長	178 cm	
	全幅	87 cm	
	全高	88 cm	
質量（燃料タンク空）	178 kg		
最小回転半径	-		
エンジン	型式	三菱 GB290LN	
	種類	空冷 4 サイクル傾斜形横軸 OHV ガソリンエンジン	
	総排気量	296 cm ³ (0.296 L)	
	最大出力	5.8 kW (8.0 PS) /2,000 rpm	
燃料タンク容量	ガソリン 6.0 dm ³ (6.0 L)		
燃料消費率	320 g/kW・h (定格出力時)		
エンジンオイル容量	1.0 dm ³ (1.0 L)		
作業幅（刈幅）	70 cm		
作業範囲（刈高）	0 - 9 cm		
ナイフ	42 枚		
駆動方式	走行	メカ切り替え方式	
	作業部	メカ方式	
速さ（HST）	-		
速さ（メカ）	前進	1 速	0.9 km/h
		2 速	1.3 km/h
		3 速	1.8 km/h
		4 速	2.7 km/h
		5 速	3.0 km/h
		6 速	4.7 km/h
	後進	1 速	1.1 km/h
		2 速	1.7 km/h
能率	2,632 m ² /h (4.7 km/h x 刈幅 x 0.8)		
使用最大傾斜角度	20 度		
タイヤサイズ	前輪	Φ150 x 50 ゴム焼付	
	後輪	4.00-9TA 2P	
タイヤ空気圧	前輪	-	
	後輪	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)	
バッテリー	-		

出荷時のエンジン最高回転速度は、1,850 rpm

変速と速さの関係

チェンジレバーの位置	走行クラッチレバーの位置	変速	速さ	能率 (速さ x 刈幅 x 0.8)
前進 (1 速)	低速	前進 (1 速)	0.9 km/h	504 m ² /h
	高速	前進 (2 速)	1.3 km/h	728 m ² /h
前進 (2 速)	低速	前進 (3 速)	1.8 km/h	1,008 m ² /h
	高速	前進 (4 速)	2.7 km/h	1,512 m ² /h
前進 (3 速)	低速	前進 (5 速)	3.0 km/h	1,680 m ² /h
	高速	前進 (6 速)	4.7 km/h	2,632 m ² /h
後進	低速	後進 (1 速)	1.1 km/h	-
	高速	後進 (2 速)	1.7 km/h	-

各部の名称

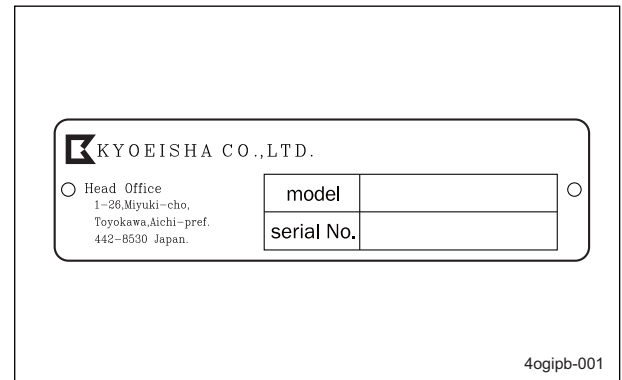


各部の名称_001

1	ハンドル
2	スロットルレバー
3	エンジンスイッチ
4	ブレーキレバー
5	走行クラッチレバー
6	操向クラッチレバー
7	チェンジレバー
8	ナイフクラッチレバー
9	エンジン
10	ミッション
11	刈高調節ハンドル
12	ナイフフレーム
13	ナイフ
14	ナイフ軸 Assy
15	防護板
16	前エプロン
17	ベルトカバー
18	ナイフベルトカバー
19	前輪タイヤ
20	後輪タイヤ
A	機番プレート

機番プレート

機番プレートは、型式と機番が記載されています。



機番プレート_001

警告ラベルと指示ラベル

警告ラベルと指示ラベルについて

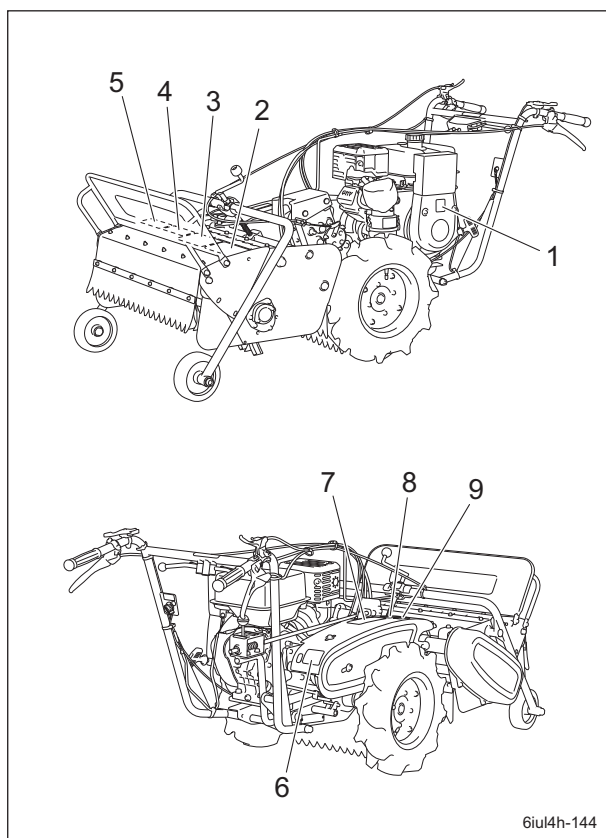
重要

この製品には、警告ラベルと指示ラベルが貼り付けられています。
ラベルはきれいに保ち、損傷や汚れ、はがれがあった場合は、新しいものと交換してください。

交換するラベルの部品番号は、パーツカタログに記載されております。

購入販売店または弊社に注文してください。

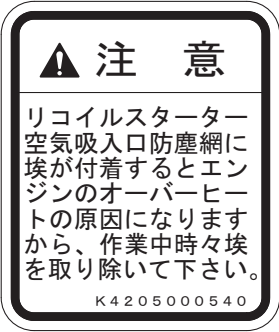
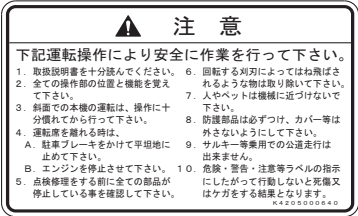
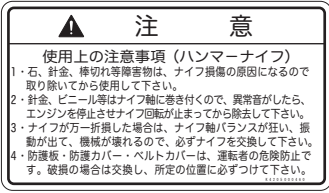
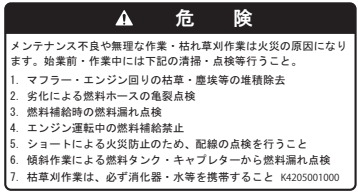
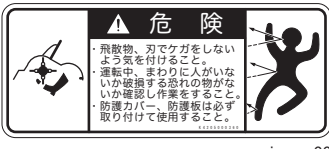
警告ラベル・指示ラベル貼付位置


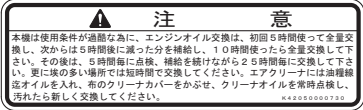




警告ラベル・指示ラベル貼付位置_001

1	指示プレート
2	運転前の注意事項ラベル
3	ハンマーナイフ点検事項
4	火災危険ラベル
5	ハンマーナイフモア危険マーク
6	クラッチ注意事項
7	エンジン注意プレート小
8	ベルト回転物注意マーク
9	ベルト表示ラベル

警告ラベル・指示ラベルの説明

1	 <p>リコイルスターター 空気吸入口防塵網に 埃が付着するとエン ジンのオーバーヒ ートの原因になりま すから、作業中時々 埃を取り除いて下 さい。</p> <p>K4205000540</p> <p>qiqqnx-127</p>	<p>K4205000540 指示プレート オーバーヒート防止の注意事項について記載されていま す。</p>
2	 <p>下記運転操作により安全に作業を行って下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 取扱説明書を十分読んでください。 全ての操作部の位置と機能を覚え て下さい。 斜面での本機の運転は、操作に十 分慣れてから行って下さい。 運転原を覆れる時は、 A. 駐車ブレーキをかけて平坦地に 止めて下さい。 B. エンジンを停止させて下さい。 点検修理をする前に全ての部品が 停止している事を確認して下さい。 回転する刈刃によってはね飛ばさ れるような物は取り除いて下さい。 人やペットは機械に近づけないで 下さい。 防護部品は必ずつけ、カバー等は 外さないようにして下さい。 サルジー等兼用での公道走行は 出来ません。 危険・警告・注意等ラベルの指示 にしたがって行動しないと死傷及 ぼケガをする危険があります。 <p>K4205000640</p> <p>qiqqnx-128</p>	<p>K4205000640 運転前の注意事項ラベル 運転操作の注意事項について記載されています。</p>
3	 <p>使用上の注意事項 (ハンマーナイフ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 石、針金、棒切れ等障害物は、ナイフ損傷の原因になるので 取り除いてから使用して下さい。 針金、ビニール等はナイフ軸に巻き付くので、異常音が出たら、 エンジンを停止させナイフ回転が止まってから除去して下さい。 ナイフが万一折損した場合は、ナイフ軸バランスが悪い、振 動が出て、機械が壊れるので、必ずナイフを交換して下さい。 防護板・防護カバー・ベルトカバーは、運転者の危険防止で す。破損の場合は交換し、所定の位置に必ずつけて下さい。 <p>qiqqnx-008</p>	<p>K4205000460 ハンマーナイフ点検事項 使用上の注意事項 (ハンマーナイフナイフ) について記 載されています。</p>
4	 <p>メンテナンス不良や無理な作業・枯れ草刈作業は火災の原因になり ます。始業前・作業中には下記の清掃・点検等を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> マフラー・エンジン回りの枯草・塵埃等の堆積除去 劣化による燃料ホースの亀裂点検 燃料補給時の燃料漏れ点検 エンジン運転中の燃料補給禁止 ショートによる火災防止のため、配線の点検を行うこと 傾斜作業による燃料タンク・キャブレターから燃料漏れ点検 枯れ草刈作業は、必ず消化器・水等を携帯すること K4205001000 <p>qiqqnx-145</p>	<p>K4205001000 火災危険ラベル 火災予防のための注意事項について記載されています。</p>
5	 <p>飛散物、刃でケガをしない よう気を付けること。 運転中、まわりに人がいな いか確認する恐れのある 物がなにか確認し作業を すること。 防護カバー・防護板は必ず 取り付けて使用するこ と。</p> <p>qiqqnx-004</p>	<p>K4205000360 ハンマーナイフ危険マーク</p> <p>危険</p> <p>飛散物注意 - 機械の前方に人を近づけないでくださ い。 手足を切る-回転を停止し、エンジンを停止しないと ケガをする危険があります。</p>

<p>6</p>	 <p>qigqnx-099</p>	<p>K4205000650 クラッチ注意事項 クラッチ操作の注意事項について記載されています。</p>															
<p>7</p>	 <p>qigqnx-132</p>	<p>K4205000730 エンジン注意プレート小 エンジンの注意事項について記載されています。</p>															
<p>8</p>	 <p>qigqnx-005</p>	<p>K4205000670 ベルト回転物注意マーク</p>  <p>回転物注意-エンジン回転中はベルトに手を近づけないでください。</p>															
<p>9</p>	<p>Vベルト</p> <table border="1" data-bbox="240 1200 592 1330"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th></th> <th>HMA72</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>走行用</td> <td>K2342043000</td> <td>Vベルト0LB43</td> <td>2本</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">パイプ用</td> <td>K2342056000</td> <td>Vベルト0LB56</td> <td>2本</td> </tr> <tr> <td>K2342039000</td> <td>Vベルト0LB39</td> <td>2本</td> </tr> </tbody> </table> <p>qigqnx-146</p>				HMA72	走行用	K2342043000	Vベルト0LB43	2本	パイプ用	K2342056000	Vベルト0LB56	2本	K2342039000	Vベルト0LB39	2本	<p>HMA72--0506Z0 ベルト表示ラベル 各部で使用しているVベルトの仕様について記載されています。</p>
			HMA72														
走行用	K2342043000	Vベルト0LB43	2本														
パイプ用	K2342056000	Vベルト0LB56	2本														
	K2342039000	Vベルト0LB39	2本														

使用前の準備	Page 4-2	移動操作	Page 4-20
エアクリーナーオイルの補給	Page 4-2	刈り込み	Page 4-20
使用前の点検	Page 4-2	傾斜地作業について	Page 4-20
ナイフ軸 Assy	Page 4-2	刈り込み操作	Page 4-20
カバー	Page 4-3	運搬	Page 4-21
ベルト	Page 4-3	運搬方法	Page 4-21
エアクリーナー	Page 4-3		
エアークリーナーカバー	Page 4-4		
タイヤ	Page 4-4		
ブレーキ	Page 4-4		
クラッチ	Page 4-4		
ワイヤー	Page 4-5		
エンジン	Page 4-5		
エンジンオイル	Page 4-5		
燃料	Page 4-6		
燃料ストレーナー	Page 4-6		
油漏れ	Page 4-7		
締め付けトルク	Page 4-8		
標準締め付けトルク	Page 4-8		
重要締め付けトルク	Page 4-10		
使用前の調整	Page 4-11		
ハンドルの調整	Page 4-11		
調節カバーの調整	Page 4-11		
刈高の調整	Page 4-11		
エンジン始動・停止方法	Page 4-12		
エンジン始動・停止	Page 4-12		
各部の操作方法	Page 4-15		
機械を離れるときの注意	Page 4-15		
操作ラベルの説明	Page 4-15		
エンジンスイッチ	Page 4-18		
ブレーキレバー	Page 4-18		
走行クラッチレバー	Page 4-18		
チェンジレバー	Page 4-19		
ナイフクラッチレバー	Page 4-19		
操向クラッチレバー	Page 4-20		
移動	Page 4-20		

取り扱い説明

使用前の準備

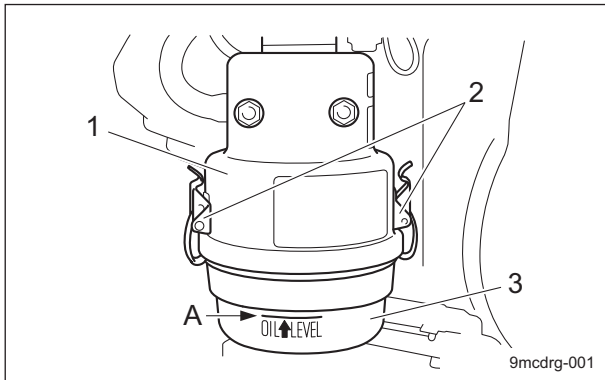
エアクリーナーオイルの補給

重要

オイルはエンジンオイルと同じものを使用してください。

エアクリーナーには、防塵のためオイルを使用しています。

1. キャッチクリップを外し、オイルパンを取り外してください。
2. オイルパンのオイルレベル線まで、オイルを入れてください。
3. オイルパンを取り付け、キャッチクリップで確実に固定してください。



エアクリーナーオイルの補給_001

1	エアクリーナー
2	キャッチクリップ
3	オイルパン
A	オイルレベル線

使用前の点検

機械の性能を引き出し、長くご使用いただくために、必ず使用前の点検をしてください。

ナイフ軸 Assy

ナイフ軸 Assy の点検

⚠ 注意

ナイフは刃物です。手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

⚠ 注意

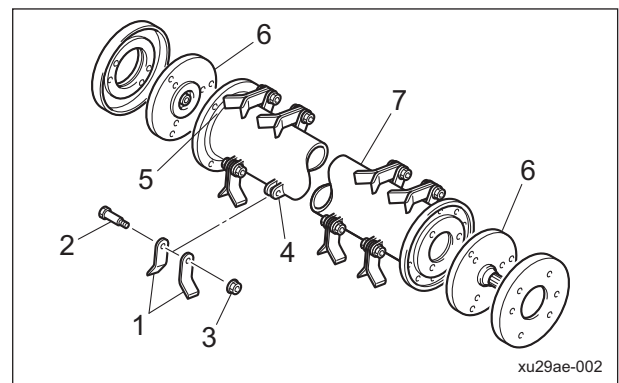
ナイフ軸 Assy は高速回転します。バランスが崩れると異常振動が出て事故や故障の原因になったり、ケガをするおそれがあります。

工場出荷時、ナイフ軸 Assy はバランスを取ってあります。

使用頻度や作業中の異物のかみ込み、移動中での損傷などにより、バランスが崩れて振動が出たり、切れ味が悪くなることがあります。点検をし、必要に応じて適切な対処をしてください。

以下の対処をしても振動が出る場合は、購入販売店にご相談ください。

部位	点検項目	対処方法
ナイフ	数量	追加（取り付け）
	曲り、損傷、変形	交換
	磨耗	反転または、交換
取付ピン、さらばね付ナット	数量	追加（取り付け）
	向き	取り付け直し
	曲り、損傷、変形、緩み	交換
ナイフ取付ヒッチ	磨耗	交換
	変形	修正または、メーカー修理
	損傷、磨耗	メーカー修理または、交換
バランスウェイト	紛失	メーカー修理
	磨耗	メーカー修理
取付軸	損傷、磨耗	メーカー修理または、交換
ナイフ軸	異物	除去
	歪み	交換



ナイフ軸 Assy の点検_001

1	ナイフ
2	取付ピン
3	さらばね付ナット
4	ナイフ取付ヒッチ
5	バランスウエイト
6	取付軸
7	ナイフ軸

カバー

カバーの点検

⚠ 注意

点検時に防護カバーを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。防護カバーが取り外されていると、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

1. 防護カバーなどに磨耗や劣化が無いか確認してください。
2. 防護カバーなどに破損が無いか確認してください。
3. 防護カバーなどに変形による可動部への干渉が無いか確認してください。
4. 防護カバーなどが所定の位置に取り付けられているか確認してください。

ベルト

ベルトの点検

⚠ 警告

ベルトの点検は、必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。

⚠ 注意

点検時にカバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れたり、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

1. ベルトの中央を指で押さえて、張り具合を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

エアクリナー

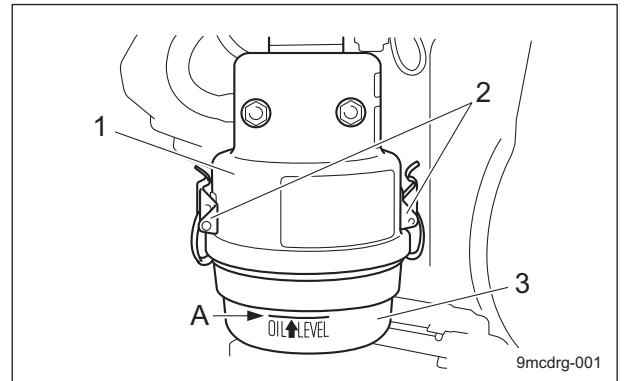
エアクリナーの点検

エアクリナーは吸入された吸気に含まれている砂塵を取り、シリンダーライナー、ピストンリングの磨耗を防ぎ、エンジンをいつも快調にする装置です。

エアクリナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。

エアクリナーには、防塵のためオイルを使用しています。

1. エアクリナーに損傷が無いか確認してください。
2. エアクリナーエレメントに汚れが無いか確認してください。
3. オイルがオイルレベル線まで入っているか確認してください。



エアクリナーの点検_001

1	エアクリナー
2	キャッチクリップ
3	オイルパン
A	オイルレベル線

取り扱い説明

エアクリーナーの清掃

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。エンジンの寿命を延ばすために適切な清掃をするように心掛けてください。

1. キャッチクリップを外し、オイルパンを取り外してください。
2. エアクリーナーエレメントを取り外してください。

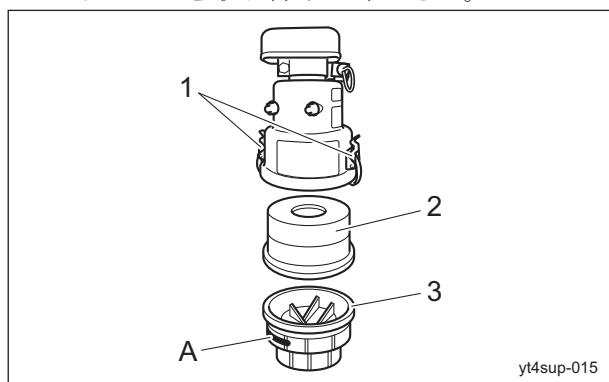
重要

エアクリーナーエレメントは、破損や汚れがある場合は交換してください。

重要

オイルはエンジンオイルと同じものを使用してください。

3. エアクリーナーエレメントは、引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄後、エンジンオイルに浸し、滴下しない程度に絞ってください。
4. オイルパンは、引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄後、オイルをオイルレベル線まで入れてください。
5. エアクリーナーエレメントを取り付けてください。
6. オイルパンを取り付けてください。



エアクリーナーの清掃_001

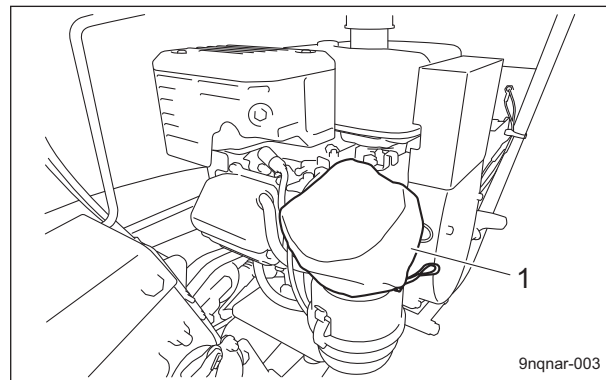
1	キャッチクリップ
2	エアクリーナーエレメント
3	オイルパン
A	オイルレベル線

エアクリーナーカバー

エアクリーナーカバーの点検

1. エアクリーナーにカバー（布袋）が確実にかぶっているか確認してください。

2. カバーの汚れがひどい場合は、新品と交換してください。



エアクリーナーカバーの点検_001

1	エアクリーナーカバー
---	------------

タイヤ

タイヤの点検

1. タイヤの空気圧を確認してください。
2. 亀裂、損傷、異常磨耗が無いか確認してください。

	タイヤサイズ	空気圧
後輪	4.00-9TA 2PR	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)

ブレーキ

ブレーキの点検

注意

機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

1. ブレーキレバーを握り、ブレーキが完全に動作するか確認してください。
2. ブレーキレバーを強く握ったとき、ブレーキレバーがロックされるか確認してください。
3. ロック解除レバーを握ったとき、ブレーキレバーのロックが解除されるか確認してください。
4. ブレーキレバーのロックを解除したとき、ブレーキの引きずりが無いことを確認してください。

クラッチ

クラッチの点検

1. クラッチレバーを操作し、クラッチが完全に動作するか確認してください。
2. クラッチレバーの作動状態が良好か確認してください。

ワイヤー

ワイヤーの点検

1. ワイヤーに亀裂、損傷が無いことを確認してください。
2. 亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

エンジン

エンジン周りの点検

1. 燃料系の部品は、取り付け部に緩みやひび割れ、漏れが無いか確認し、必要があれば交換してください。
2. マフラーやマフラーの周りに芝草や可燃物が付着している場合は、圧縮空気を吹き付けて清掃してください。

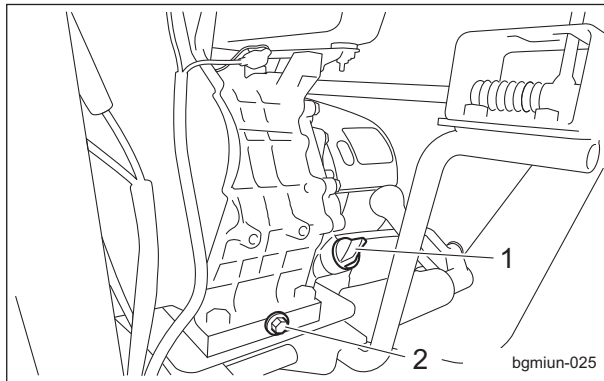
エンジンオイル

エンジンオイルの点検

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

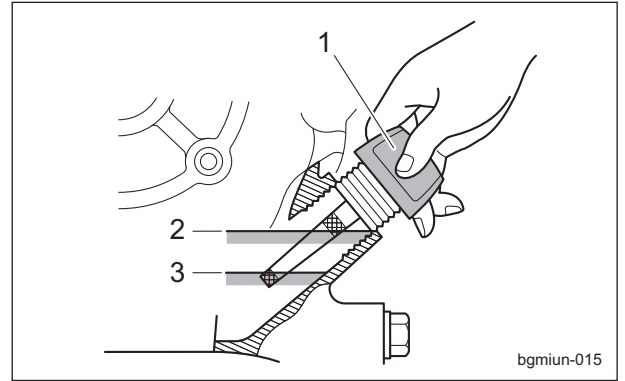
1. オイルレベルの点検は、エンジンを停止し、10 - 20 分後に行ってください。
2. エンジンを水平な状態にし、オイル注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



エンジンオイルの点検_001

1	オイルレベルゲージ (オイル注入口)
2	ドレンプラグ

3. エンジンオイル量が上限と下限の間であれば適量です。



エンジンオイルの点検_002

1	オイルレベルゲージ
2	上限
3	下限

エンジンオイルの補給

重要

エンジンオイルの入れ過ぎは、エンジンの破損事故の原因となります。

重要

絶対に異なった種類のエンジンオイルを混ぜないでください。

重要

エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

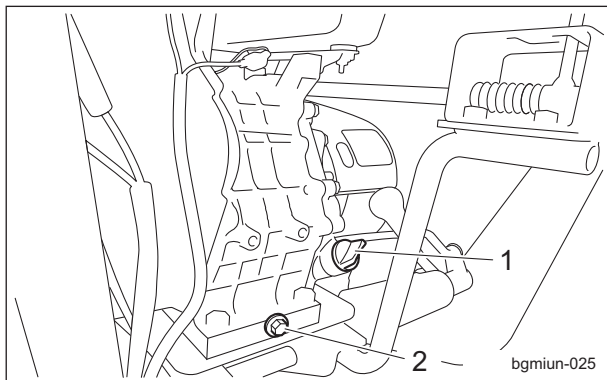
重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

1. オイルレベルゲージを取り外してください。
2. オイル注入口から新しいエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限になるまでエンジンオイルを入れてください。
3. エンジンを水平な状態にし、オイル注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。

取り扱い説明

4. オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。



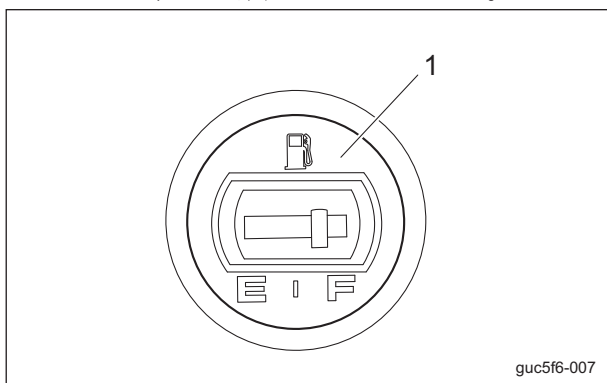
エンジンオイルの補給_001

1	オイルレベルゲージ (オイル注入口)
2	ドレンプラグ

燃料

燃料の点検

機械を水平な状態にし、燃料タンク上の燃料ゲージにて、量の確認をしてください。



燃料の点検_001

1	燃料ゲージ
---	-------

燃料の給油

警告

燃料ゲージの FULL の位置以上に給油はしないでください。

燃料を入れ過ぎると、傾斜地での走行・作業時などにタンクキャップより燃料があふれて火災になるおそれがあります。

警告

燃料給油時は、火気厳禁です。
喫煙しないでください。

警告

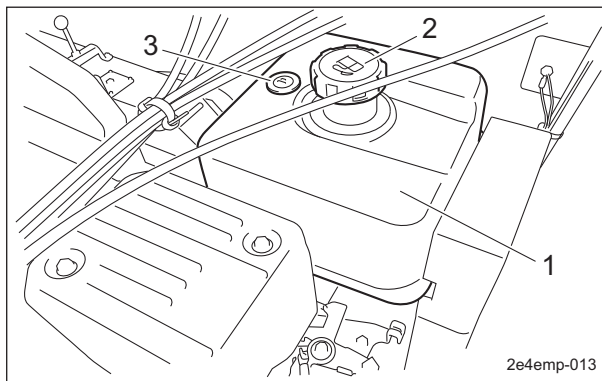
燃料の給油はエンジンを停止し、十分冷えてから行ってください。

注意

高温部に触れないように注意してください。

燃料タンク上の燃料ゲージが、EMPTY に近づいたら早めに燃料 (ガソリン) の給油を行ってください。

燃料タンク容量は、約 6.0 dm³ (6.0 L) です。



燃料の給油_001

1	燃料タンク
2	タンクキャップ
3	燃料ゲージ

燃料ストレーナー

燃料ストレーナーの点検

燃料ストレーナーは、燃料タンク近くに取り付けてあり、キャブレターへの流入燃料をきれいにします。

燃料の流れが悪くなったら、必要に応じて清掃または、交換してください。

1. 燃料漏れが無い確認してください。
2. 傷、汚れが無い確認してください。

燃料ストレーナーの清掃

燃料ストレーナーは、埃やゴミがたまると燃料の流れが悪くなります。

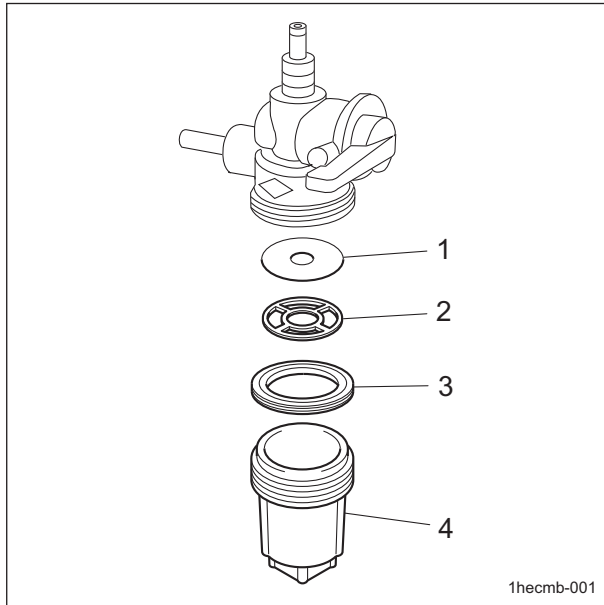
定期的に清掃を行ってください。

重要

燃料ストレーナーの清掃は、埃やゴミの無い清潔な場所で行ってください。

1. 燃料フィルターの燃料コックを閉じてください。

2. 燃料コックのストレーナーカップを取り外してください。
3. ストレーナーカップ内部とフィルターを引火性の低い灯油などの溶剤で洗浄してください。
4. 圧縮空気乾燥させてください。



燃料ストレーナーの清掃_001

1	フィルター
2	パッキンA
3	パッキンB
4	ストレーナーカップ

重要

取り付けるときは、チリや埃が付着しないように注意してください。
燃料内にチリや埃などが混入すると、燃料の流れが悪くなります。

5. 元のように正しく組み付けてください。
6. 燃料タンクに燃料を満たし、燃料コックを開いてください。
7. 燃料漏れが無いか確認してください。

油漏れ**各部油漏れの点検**

50 時間くらい使用すると、締め付け部の緩みなどが発生し、オイルやグリースが漏れる可能性があります。

必ず増し締めを行ってください。

機械の下を確認し、オイルやグリースなどの漏れが無いか確認してください。

取り扱い説明

締め付けトルク

重要

締め付けトルク一覧を参照してください。
異常な締め付け、オーバートルクでの締め付けなどで生じた不具合については、弊社では責任を負いかねます。


標準締め付けトルク



ボルト、ねじ類

重要

各部には、ボルト止めが多く使われております。
使用初期はボルト、ナットなどの緩みが出る場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。

特別指示の無いボルト、ナットは、適切な工具により適正な締め付けトルクで締め付けてください。
締め付けが強すぎると「ねじ」は緩んだり、破損したりします。
締め付け強さは、ねじの種類、強度、ねじ面や座面の摩擦などで決めております。
一覧表は、亜鉛メッキまたはパーカー処理したボルトを対象としております。
めねじの強度が弱い場合は適用できません。
さびていたり、砂などが付着している「ねじ」は、使用しないでください。
所定の締め付けトルクを与えても締め付け不足になります。
ねじ面の摩擦が大きくなり、締め付けトルクのほとんどを摩擦損失し、締め付ける力になりません。
「ねじ」が水や油で濡れている場合は、通常の締め付けトルクで締めないでください。
ねじが濡れるとトルク係数が小さくなり、締め過ぎになります。
締め過ぎると、ねじが伸びて緩んだり、破損することがあります。
一度、大きな負荷がかかったボルトは、使用しないでください。
インパクトレンチで締めるときは、熟練が必要です。
できるだけ安定した締め付け作業ができるように練習してください。

呼び径	一般ボルト		
	強度区分 4.8		
	 tib3yb-001		
	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	3 - 5	30.59 - 50.99	26.55 - 44.26
M6	7 - 9	71.38 - 91.77	61.96 - 79.66
M8	14 - 19	142.76 - 193.74	123.91 - 168.17
M10	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34
M12	52 - 67	530.24 - 683.20	460.25 - 593.02
M14	70 - 94	713.79 - 958.52	619.57 - 831.99
M16	88 - 112	897.34 - 1142.06	778.89 - 991.31
M18	116 - 144	1,182.85 - 1,468.37	1,026.72 - 1,274.54
M20	147 - 183	1,498.96 - 1,866.05	1,301.10 - 1,619.73
M22	295	3,008.12	2,611.05
M24	370	3,772.89	3,274.87
M27	550	5,608.35	4,868.05
M30	740	7,545.78	6,549.74

呼び径	調質ボルト					
	強度区分 8.8			強度区分 10.9		
	 tib3yb-002			 tib3yb-003		
	N-m	kgf-cm	lb-in	N-m	kgf-cm	lb-in
M5	5 - 7	50.99 - 71.38	44.26 - 61.96	7 - 10	71.38 - 101.97	61.96 - 88.51
M6	8 - 11	81.58 - 112.17	70.81 - 97.36	14 - 18	142.76 - 183.55	123.91 - 159.32
M8	23 - 29	234.53 - 295.71	203.57 - 256.68	28 - 38	285.52 - 387.49	247.83 - 336.34
M10	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	58 - 76	591.43 - 774.97	513.36 - 672.68
M12	67 - 85	683.20 - 866.75	593.02 - 752.34	104 - 134	1,060.49 - 1,366.40	920.50 - 1186.03
M14	106 - 134	1,080.88 - 1,366.40	938.21 - 1,186.03	140 - 188	1,427.58 - 1,917.04	1,239.14 - 1,663.99
M16	152 - 188	1,549.94 - 1,917.04	1,345.35 - 1,663.99	210 - 260	2,141.37 - 2,651.22	1,858.71 - 2,301.26
M18	200 - 240	2,039.40 - 2,447.28	1,770.20 - 2,124.24	280 - 340	2,855.16 - 3,466.98	2,478.28 - 3,009.34
M20	245 - 295	2,498.27 - 3,008.12	2,168.50 - 2,611.05	370 - 450	3,772.89 - 4,588.65	3,274.87 - 3,982.95
M22	—	—	—	530	5,404.41	4,691.03
M24	—	—	—	670	6,831.99	5,930.17
M27	—	—	—	1,000	10,197.00	8,851.00
M30	—	—	—	1,340	14,628.78	11,860.34

参考：

「細目ねじ」についても、同じ数値とする。

取り扱い説明

重要締め付けトルク

機種別締め付けトルク

HMA72

次のボルト、ナットは下記のトルクで締め付けてください。

ねじ緩み止め剤は、ネジロック中強度（スリーボンド 1322 相当品 嫌気性封着剤）を塗布してください。

部位	コード番号	品名	締め付けトルク N-m			ねじ緩み止め剤
			N-m	kgf-cm	lb-in	
ミッション部 A	K0071000041	ミッションケースノックボルト	14	142.76	123.91	—
	K0010060152	6 調質ボルト 15	14	142.76	123.91	—
ナイフフレーム部	RH70---0312B8	ナイフ軸取替ボルト	45 - 57	458.87 - 581.23	398.30 - 504.51	—
	K6083000088 (K0143080002)	10 取付ピン 22 (8 さらばね付ナット)	19	193.74	168.17	—
			緩めトルク 14 - 16	緩めトルク 142.76 - 163.15	緩めトルク 123.91 - 141.62	—
エンジン部	K0000100402	10 ボルト 40	29 - 38	295.71 - 387.49	256.68 - 336.34	—

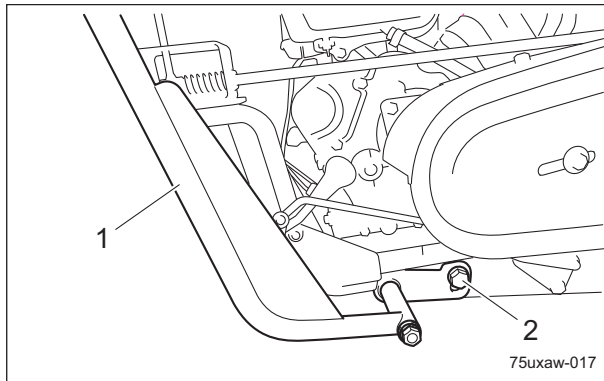
使用前の調整

ハンドルの調整

作業者の作業位置に合わせてハンドル高さを調整することができます。

ハンドルの高さは、2段階に調整できます。

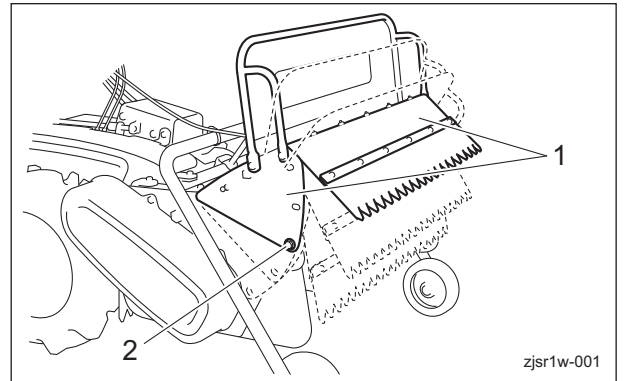
1. 左右のハンドル調節ボルトを緩めてください。
2. ハンドル取り付け穴を任意の位置に設定して、ボルトを確実に締め付けてください。



ハンドルの調整_001

1	ハンドル
2	ハンドル調節ボルト

3. ボルトを確実に締め付けてください。



調節カバーの調整_001

1	調節カバー
2	ボルト

刈高の調整

刈り込み作業に応じて、刈高を調整してください。

⚠ 注意

刈高調整はエンジンを停止して、すべての駆動が停止していることを確認してから行ってください。

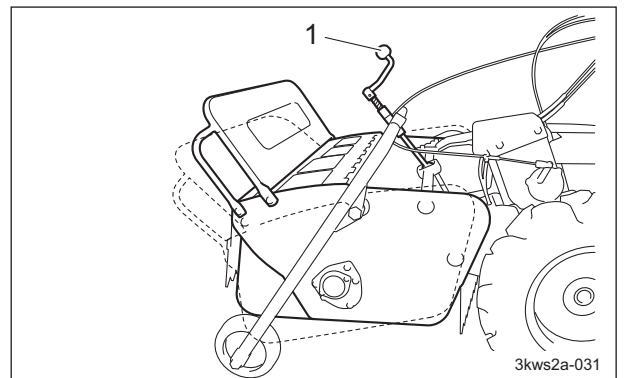
重要

セット刈高のため実際の刈高とは異なります。

刈高調節ハンドルを回し、任意の刈高に設定してください。

刈高調節ハンドルを時計回りに回すと刈高が低くなります。

刈高調節ハンドルを反時計回りに回すと刈高が高くなります。



刈高の調整_001

1	刈高調節ハンドル
---	----------

調節カバーの調整

⚠ 警告

調節カバーの調整はエンジンを停止して、すべての駆動が停止していることを確認してから行ってください。

⚠ 注意

調節カバーを上げて刈り込み操作を行うことにより、飛散物が飛びやすくなりますので、特に注意してください。

草丈に応じて、調節カバーを調整してください。調節カバーは、3段階に調整できます。

参考：

工場出荷時は、調節カバーを一番下の位置に設定してあります。

1. 左右のボルトを取り外してください。
2. 調節カバーを任意の穴位置に設定して、ボルトを取り付けてください。

取り扱い説明

エンジン始動・停止方法

エンジン始動・停止

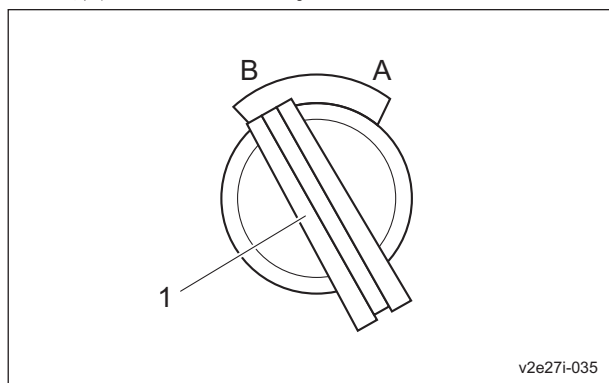
エンジン始動手順



警告

エンジンを始動する前に機械の周囲に人や障害物が無いことを確認してください。

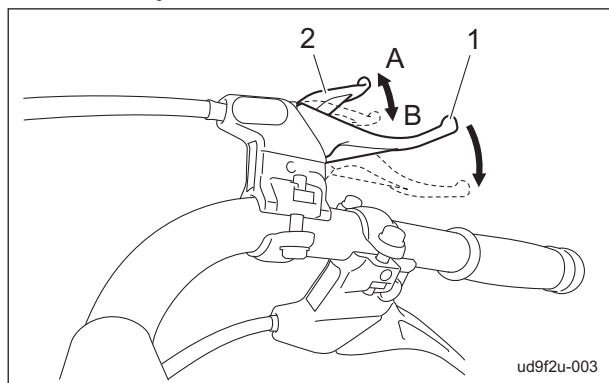
1. エンジンスイッチが「OFF」になっていることを確認してください。



エンジン始動手順_001

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

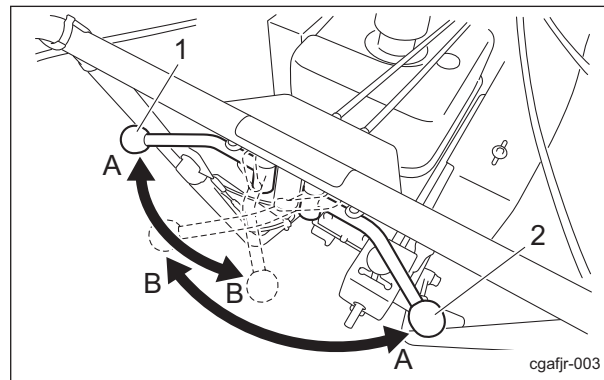
2. ブレーキがロックされていることを確認してください。



エンジン始動手順_002

1	ブレーキレバー
2	ロック解除レバー
A	ロック解除
B	ロック

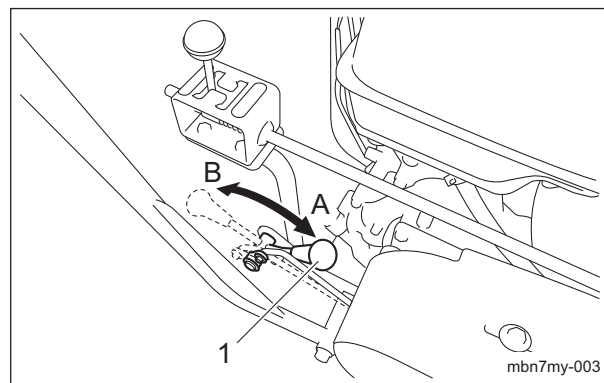
3. 走行クラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン始動手順_003

1	走行クラッチレバー
A	「切」
B	「入」

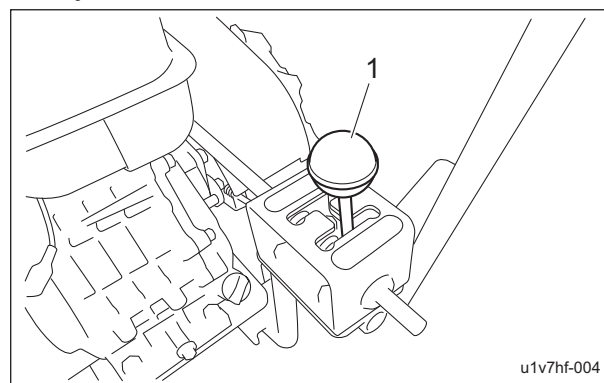
4. ナイフクラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン始動手順_004

1	ナイフクラッチレバー
A	「切」
B	「入」

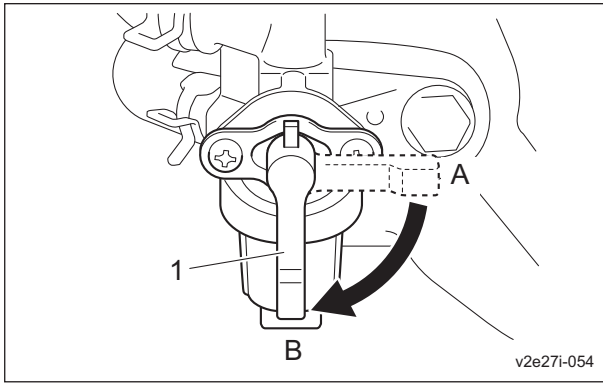
5. チェンジレバーを「N」の位置にしてください。



エンジン始動手順_005

1	チェンジレバー
---	---------

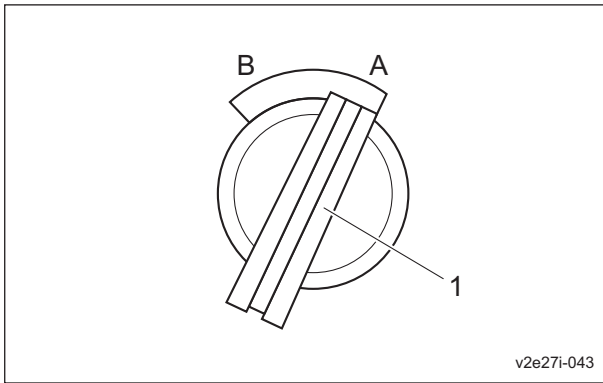
6. 燃料コックを「開」の位置にしてください。



エンジン始動手順_006

1	燃料コック
A	「閉」
B	「開」

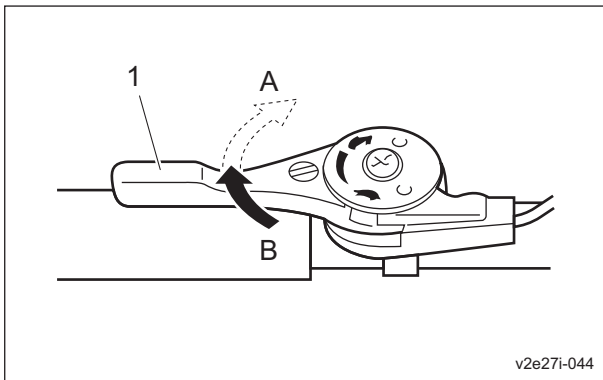
7. エンジンスイッチを「ON」の位置にしてください。



エンジン始動手順_007

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

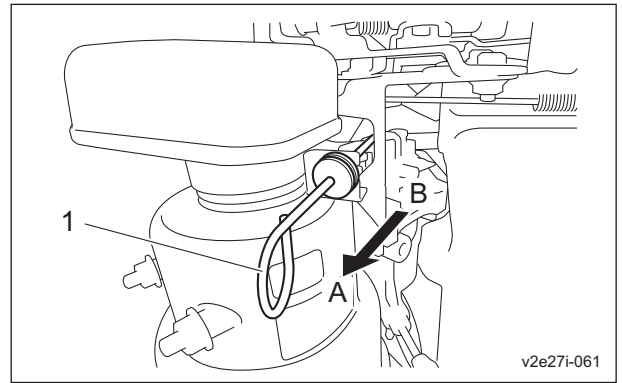
8. スロットルレバーを「低速」側から半分程度「高速」側へ動かしてください。



エンジン始動手順_008

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

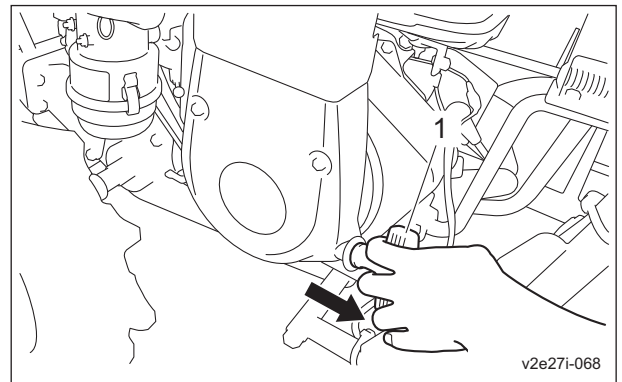
9. チョークレバーをいっぱいまで引いてください。



エンジン始動手順_009

1	チョークレバー
A	「閉」
B	「開」

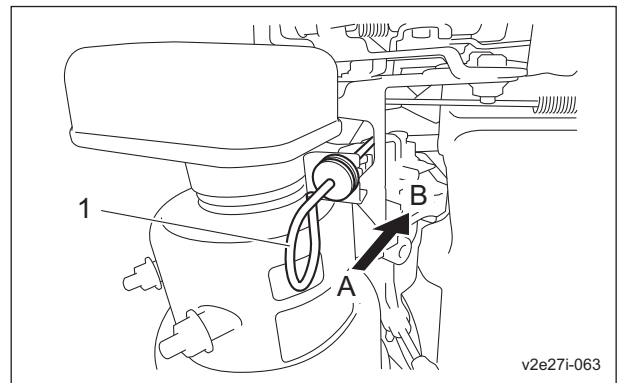
10. リコイルスターターを引き、エンジンを始動してください。



エンジン始動手順_010

1	リコイルスターター
---	-----------

11. チョークレバーをいっぱいまで押し込んでください。



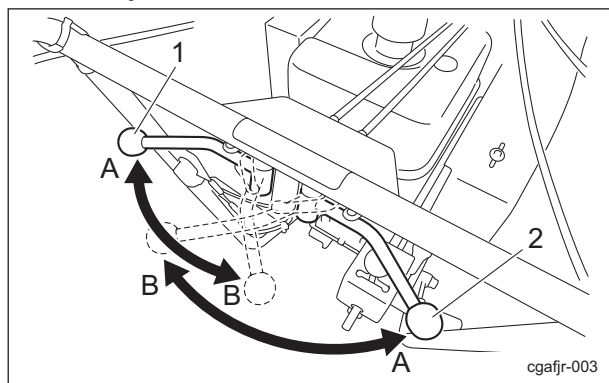
エンジン始動手順_011

1	チョークレバー
A	「閉」
B	「開」

取り扱い説明

エンジン停止手順

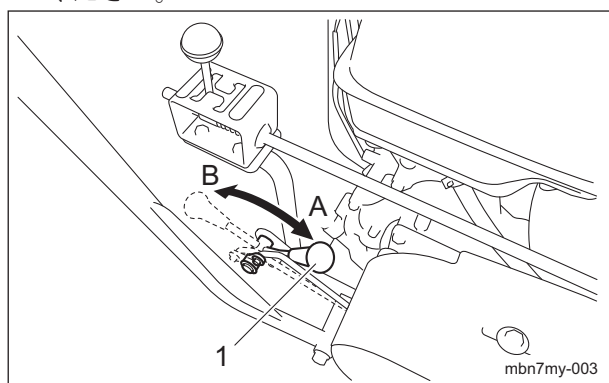
1. 走行クラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン停止手順_001

1	走行クラッチレバー
A	「切」
B	「入」

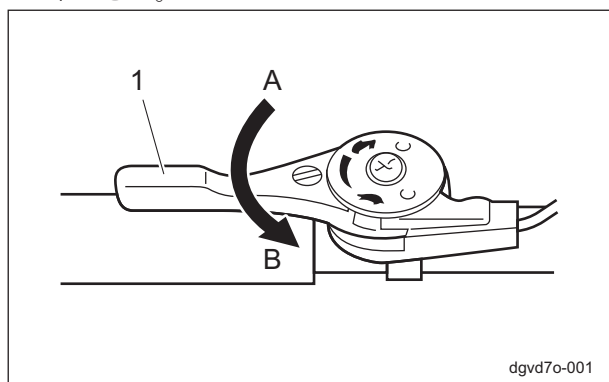
2. ナイフクラッチレバーを「切」の位置にしてください。



エンジン停止手順_002

1	ナイフクラッチレバー
A	「切」
B	「入」

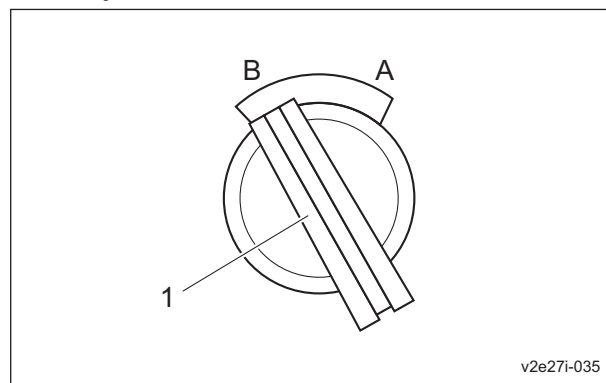
3. スロットルレバーを「低速」側の位置にしてください。



エンジン停止手順_003

1	スロットルレバー
A	高速
B	低速

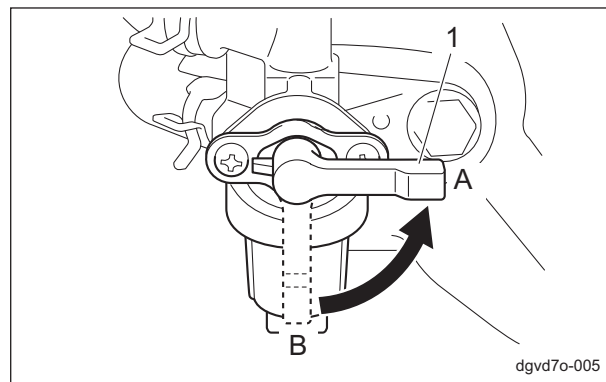
4. エンジンスイッチを「OFF」の位置にしてください。



エンジン停止手順_004

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

5. 燃料コックを「閉」の位置にしてください。



エンジン停止手順_005

1	燃料コック
A	閉
B	開

各部の操作方法

機械を離れるときの注意

⚠ 注意

機械を水平な場所に駐車してください。
傾斜地での駐車は絶対にしないでください。

⚠ 注意

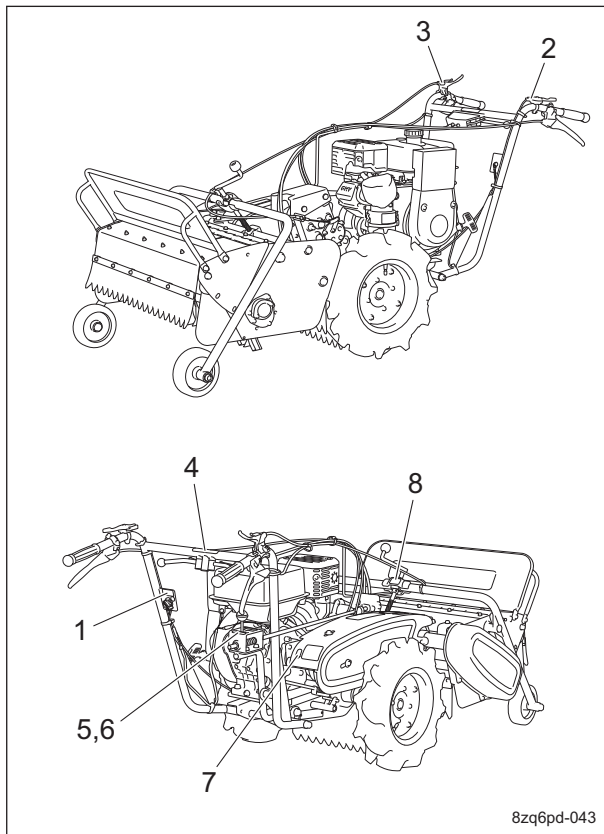
エンジンが確実に停止していることを確認してください。

⚠ 注意

ブレーキレバーがロックされていることを確認してください。


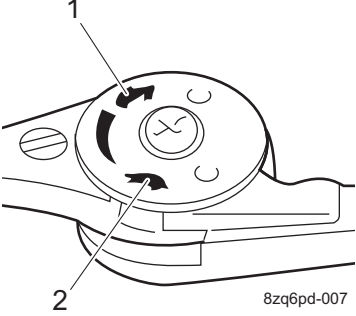
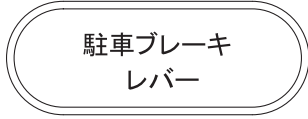


1	エンジンスイッチマーク
2	エンジン回転マーク
3	駐車ブレーキレバーマーク
4	クラッチ指示マーク
5	1・2・Nチェンジプレート
6	3・Rチェンジプレート
7	刃の回転マーク
8	刈高プレート

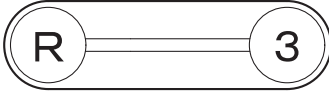
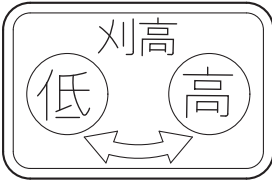
操作ラベルの説明



操作ラベルの説明_001

取り扱い説明

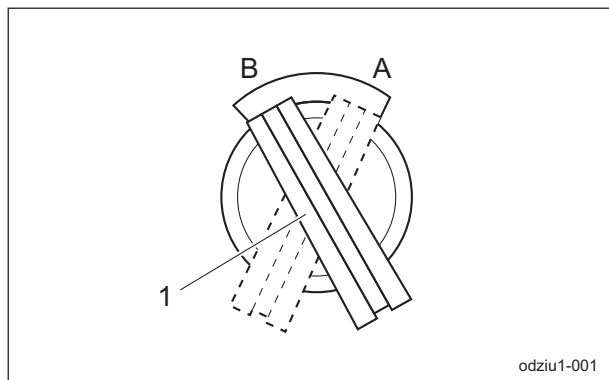
1	<p>K4203000680 エンジンスイッチマーク エンジンスイッチの位置を示しています。</p>	 <p>エンジンスイッチ OFF → ON</p> <p>8zq6pd-025</p>
2	<p>- エンジン回転マーク エンジン回転速度の高速・低速を示しています。 1. 高速 2. 低速</p>	 <p>1</p> <p>2</p> <p>8zq6pd-007</p>
3	<p>K4203000190 駐車ブレーキレバーマーク 駐車ブレーキレバーの位置を示しています。</p>	 <p>駐車ブレーキ レバー</p> <p>8zq6pd-029</p>
4	<p>K4209000360 クラッチ指示マーク 走行クラッチレバーの高速・低速と入・切を示しています。</p>	 <p>走行クラッチ K4209000360</p> <p>切 低速 入 入 高速 切</p> <p>8zq6pd-044</p>
5	<p>K4203000060 1・2・N チェンジプレート チェンジレバーの位置を示しています。 1. 前進 (1 速) 2. 前進 (2 速) N. 中立</p>	 <p>1 N 2</p> <p>8zq6pd-045</p>

6	<p>K4203000070 3・R チェンジプレート チェンジレバーの位置を示しています。 3. 前進 (3 速) R. 後進</p>	 <p>8zq6pd-046</p>
7	<p>K4203000010 刃の回転マーク ナイフクラッチレバーの位置を示しています。</p>	 <p>8zq6pd-047</p>
8	<p>K4204000010 刈高プレート 刈高調節ハンドルの回転方向を示しています。</p>	 <p>8zq6pd-048</p>

取り扱い説明

エンジンスイッチ

エンジンスイッチは、ハンドルにあります。
エンジンを始動するときはスイッチを「ON」の位置にし、エンジンを停止するときはスイッチを「OFF」の位置にします。



エンジンスイッチ_001

1	エンジンスイッチ
A	ON
B	OFF

ブレーキレバー

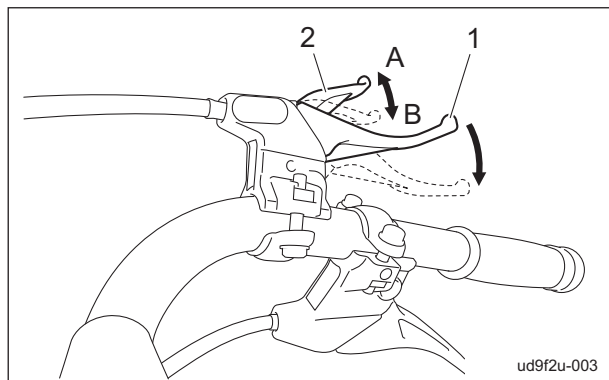
重要

走行中のブレーキ操作は、ブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。
ブレーキレバーを操作するときは、走行クラッチレバーを切ってください。

ブレーキレバーはハンドルにあります。
ブレーキレバーを握るとブレーキがかかり、ブレーキレバーを強く握るとブレーキレバーがロックされます。
ロック解除レバーを握ると、ブレーキレバーのロックは解除されます。

参考：

駐車ブレーキとして使用することができます。



ブレーキレバー_001

1	ブレーキレバー
2	ロック解除レバー
A	ロック解除
B	ロック

走行クラッチレバー

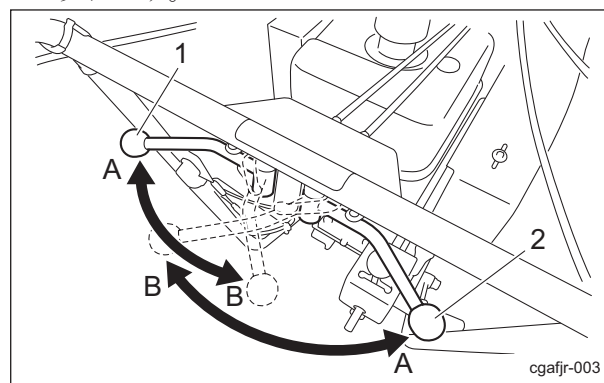
警告

後進時は、後方に障害物が無いことを確認してください。
転倒したり、障害物に挟まれて、重大な事故につながります。

重要

走行クラッチレバーは、チェンジレバーを作業や移動に適した位置に操作してから操作してください。

走行クラッチレバーはハンドルにあります。
左側の走行クラッチレバーが低速用、右側の走行クラッチレバーが高速用です。
走行クラッチレバーをB方向に動かすとテンションが入り走行します。
走行クラッチレバーをA方向に動かすとテンションが切れます。



走行クラッチレバー_001

1	走行クラッチレバー（低速）
2	走行クラッチレバー（高速）
A	「切」
B	「入」

チェンジレバー

警告

後進時は、後方に障害物が無いことを確認してください。
転倒したり、障害物に挟まれて、重大な事故につながります。

注意

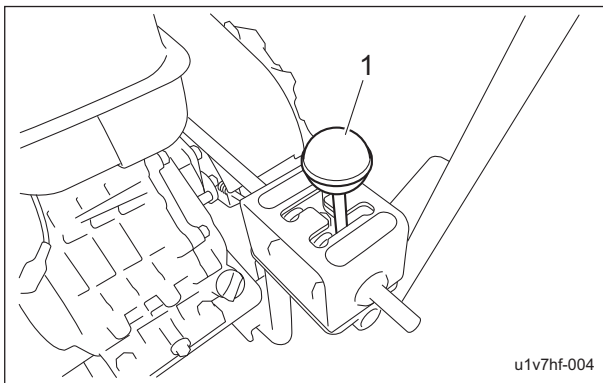
チェンジレバーは、平坦な場所で、走行クラッチレバーを切ってから操作してください。

重要

ミッションが破損するおそれがありますので、走行中はチェンジレバーを切り替えないでください。

チェンジレバーはハンドル下部にある変速装置です。
作業や移動に適した任意の位置にレバーを合わせてください。

前進	1 速
	2 速
	3 速
後進	R
中立	N



チェンジレバー_001

1	チェンジレバー
---	---------

ナイフクラッチレバー

危険

ナイフの回転している部分は危険ですので、手足や物を入れたり、触れたりしないでください。

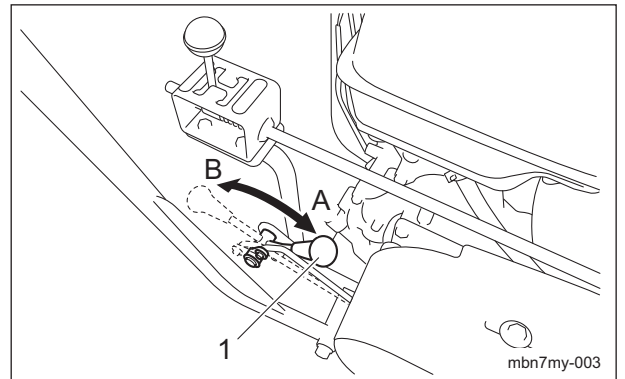
注意

ナイフクラッチレバーは、刈り込む直前に入れ、それ以外のときは、必ず切っておいてください。

重要

ナイフクラッチレバーはゆっくりと入れてください。
急激に入れるとエンストやベルトの損傷につながります。

ナイフクラッチレバーはハンドル下部にあります。
ナイフクラッチレバーを手前に引くとナイフ軸 Assy が回転します。
ナイフクラッチレバーを押すとナイフ軸 Assy の回転が停止します。



ナイフクラッチレバー_001

1	ナイフクラッチレバー
A	「切」
B	「入」

取り扱い説明

操向クラッチレバー

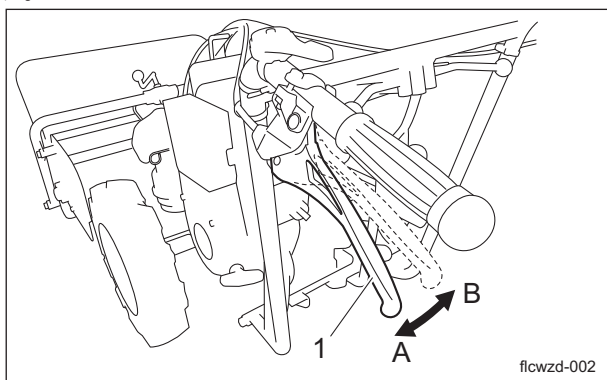
警告

旋回時は、周囲に障害物が無いことを確認してください。
転倒したり、障害物に挟まれて、重大な事故につながります。

警告

傾斜地では操向クラッチレバーを左右同時に握らないでください。
制御不能になります。

操向クラッチレバーはハンドルにあります。
旋回する側の操向クラッチレバーを握り、前輪を浮かせて旋回します。
右側の操向クラッチレバーを握ると右に旋回します。
左側の操向クラッチレバーを握ると左に旋回します。



操向クラッチレバー_001

1	操向クラッチレバー
A	「切」
B	「入」

移動

移動操作

警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。

注意

どのような場合にも、緊急停止ができる速さで運転してください。

1. エンジンを始動します。
2. チェンジレバーを任意の位置にします。

3. ブレーキを解除します。
4. 走行クラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にします。
5. 機械は走行を始めます。

刈り込み

傾斜地作業について

傾斜地作業を行うときは、以下のことに注意をして作業を行ってください。

- ・ 傾斜地では、特に作業前に穴・岩石・木の根・（その他不法投棄物）などが無いかを確認してそれらを取り除いてから、十分気をつけて作業をしてください。
- ・ 傾斜地での転倒を防ぐために、斜面の一番下から等高線に沿って作業し、順番に上方へ移動してください。
ただし、下方から作業できない場合は、傾斜角度の緩いところから等高線に沿って作業をしてください。
- ・ 旋回は、傾斜上方の操向クラッチレバーを握り、旋回してください。
- ・ 安全のために、機械が等高線に沿って停止するようにしてください。
- ・ 燃料は、早めに給油してください。

刈り込み操作

危険

後進するときは、ナイフクラッチレバーを「切」の位置にしてください。
転倒したり、障害物に挟まれたとき重大事故につながります。

警告

急発進・急停車は、絶対行わないでください。

注意

刈り込み作業は、必ず場所にあった速さで行ってください。
凸凹面の刈り込みは、刈り込み速さを遅くして行ってください

1. エンジンを始動します。
2. チェンジレバーを任意の位置にします。
3. ブレーキを解除します。
4. ナイフクラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にし、ナイフ軸 Assy を回転させます。
5. 走行クラッチレバーをゆっくりと「入」の位置にし、刈り込みを始めます。

運搬

運搬方法

▲ 注意

機械を積み降ろしするときは、滑らない靴を着用し、ゆっくりと走行してください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ロープをエンジンに掛けないでください。

重要

ロープを掛けて機械を固定するときは、ワイヤーを曲げないように注意してください。

この機械をトラックやトレーラーに積載する場合は、十分注意してください。
積み降ろしは平らな安全な場所で、トラックやトレーラーの駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、輪止めをして行ってください。
トラックやトレーラーに積載して移動するときは、この機械の駐車ブレーキをかけ、エンジンを止め、強度が十分あるロープなどで機械を固定してください。
あゆみ板を使用する場合は、幅、長さ、強度が十分あり、スリップしないものを選んでください。

メンテナンス上の注意	Page 5-2
メンテナンス時の機械姿勢	Page 5-2
メンテナンススケジュール	Page 5-3
規定値	Page 5-4
注油	Page 5-5
注油について	Page 5-5
注油位置	Page 5-5
ジャッキアップ	Page 5-6
ジャッキアップについて	Page 5-6
ジャッキアップポイント	Page 5-6
メンテナンスの方法	Page 5-7
ナイフの反転	Page 5-7
ナイフの交換	Page 5-7
ナイフ軸 Assy のバランス取り	Page 5-9
タイヤの脱着	Page 5-9
ベルトの張り調整	Page 5-11
ブレーキの調整	Page 5-13
操向クラッチの調整	Page 5-14
チェンジロッドの調整	Page 5-14
エアクリーナーの交換	Page 5-15
エンジンオイルの交換	Page 5-15
ミッションオイルの交換	Page 5-16
長期保管	Page 5-16
長期保管について	Page 5-16

メンテナンス

メンテナンス上の注意

注意

実施するメンテナンスを熟知してから行ってください。

重要

メンテナンスを行う際に必要な工具は、目的にあったものを使用してください。

重要

常に安全に、最高の性能でお使い頂くために、交換部品やアクセサリは BARONESS 純正部品をお求めください。

純正部品以外の部品をご使用になった場合、製品保証を受けられなくなる場合がありますので、ご注意ください。

メンテナンス時の機械姿勢

重要

機械のメンテナンスを行うときなど、ハンドル側を下にして倒した姿勢で長時間放置すると、エンジンの燃焼室にエンジンオイルが入り、エンジン不調の原因となることがありますので注意してください。

また、ハンドルを立てた位置に戻してからオイルが戻るのに十分な時間を確保するため、10分経過してからエンジンを始動してください。

メンテナンススケジュール

メンテナンススケジュールは、以下のとおりです。

○・・・点検、調整、補給、清掃

●・・・交換（初回）

△・・・交換

メンテナンス項目		作業前	作業後	10時間ごと	25時間ごと	50時間ごと	100時間ごと	300時間ごと	1年ごと	必要に応じて	備考	
エンジン	*2 各種ボルトナットの締め付け	○										
	*2 燃料レベルの点検	○										
	*2 液漏れ（油、燃料）の点検	○										
	*2 エンジンオイルレベルの点検	○									「エンジンオイルの点検」「エンジンオイルの補給」参照	
	*2 エアクリーナーの点検		○							△	「エアクリーナーの点検」「エアクリーナーの清掃」参照	
	*2 エンジンおよびマフラー・排気管周辺の清掃		○									
		リコイルスターター防塵網の清掃		○								
	*2 エンジンオイルの交換				●	△						初回 25h 「エンジンオイルの交換」参照
	*2 点火プラグの点検						○			△		
	*2 燃料ストレーナーの清掃						○				「燃料ストレーナーの点検」「燃料ストレーナーの清掃」参照	
	*1 燃料タンク・燃料ろ過網の清掃							○				
	*1 バルブクリアランスの点検・調整							○				
	*1 燃焼室のカーボン除去							○				
		燃料ホースとクランプバンドの点検							○	△		
本体		タイヤの空気圧と状態の点検	○									「タイヤの点検」参照
		各部の損傷の点検	○									
		ボルト、ナットの締め付けの点検	○									
		ナイフの磨耗、折損の点検	○									「ナイフの点検」参照
		ナイフ取り付けピンの緩み、磨耗の点検	○									「ナイフ軸 Assy の点検」参照
		刈高の点検	○									「刈高の調整」参照
		防護板の状態の点検	○									「カバーの点検」参照
		前エプロンの状態の点検	○									
		走行クラッチレバーの作動の点検	○									「クラッチの点検」参照
		ナイフクラッチレバーの作動の点検	○									「クラッチの点検」参照
		操向クラッチの作動の点検	○									「クラッチの点検」参照
		チェンジレバーの作動の点検	○									
		ブレーキの作動の点検	○									「ブレーキの点検」「ブレーキの調整」参照
	駐車ブレーキの作動の点検	○									「ブレーキの点検」「ブレーキの調整」参照	

メンテナンス

メンテナンス項目		作業前	作業後	10時間ごと	25時間ごと	50時間ごと	100時間ごと	300時間ごと	1年ごと	必要に応じて	備考
本体	ハンドル位置の調整	○									「ハンドルの調整」参照
	カバーの状態の点検	○									「カバーの点検」参照
	油漏れの点検	○									「各部油漏れの点検」参照
	本体外装部の清掃		○								
	Vベルトの張り調整			○			○				初回 10 時間、2 回目以降 100 時間毎 「ベルトの張り調整_ナイフベルト」、「ベルトの張り調整_走行用ベルト」参照
	ブレーキワイヤーの点検						○			△	「ワイヤーの点検」参照
	走行クラッチワイヤーの点検	○									「ワイヤーの点検」参照
	操向クラッチワイヤーの点検	○									「ワイヤーの点検」参照
	電気配線の状態（損傷、汚損、接続部の緩み）の点検									○	
	可動部の注油									○	「注油位置」参照（A部）
	スロットルワイヤーの点検									○	「ワイヤーの点検」参照
	ミッションオイル量の点検									○	
	ミッションオイルの交換						●		△		「ミッションオイルの交換」参照
Vベルトの交換										△	

- ・ *1：点検整備は、お近くのバロネス販売店に相談の上、その指示に従ってください。
- ・ *2：エンジンの取扱説明書を参照ください。
- ・ 消耗品については、保証値ではありません。

規定値

燃料タンク容量	6.0 dm ³ (6.0 L)	ガソリン	
エンジンオイル容量	1.0 dm ³ (1.0 L)	SAE30 (API サービス分類 SE 級以上)	
ミッションオイル容量	1.4 dm ³ (1.4 L)	SAE90	
スパークプラグ	-	NGK BP5ES	
タイヤ空気圧 後輪	120 kPa (1.2 kgf/cm ²)	4.00-9TA 2PR	
走行ベルト	44.0 - 47.0 mm (1.73 - 1.85 in)	フックバネのコイル部分の長さ	
ナイフベルト	エンジン - 中間軸	52.0 - 55.0 mm (2.05 - 2.17 in)	テンションプリングの長さ
	中間軸 - ナイフ軸	5.0 - 10.0 mm (0.20 - 0.39 in) のたわみ	ベルトのプーリー間の中央を 25 N (2.5 kgf) で押す

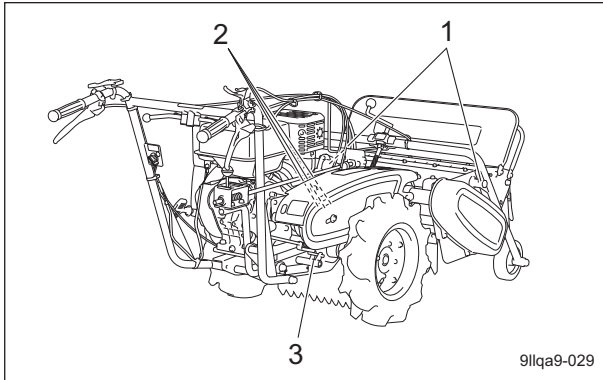
注油

注油について

可動部が固着したり、破損したりする可能性がありますので、潤滑剤を塗布する必要があります。潤滑剤を使用する場所は、「注油位置」に記載されています。潤滑剤を塗布してください。

注油位置

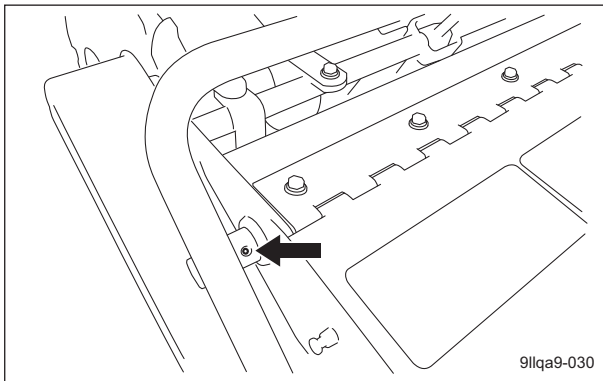
次の場所に注油口があります。
50 時間ごとに潤滑剤を塗布してください。



注油位置_001

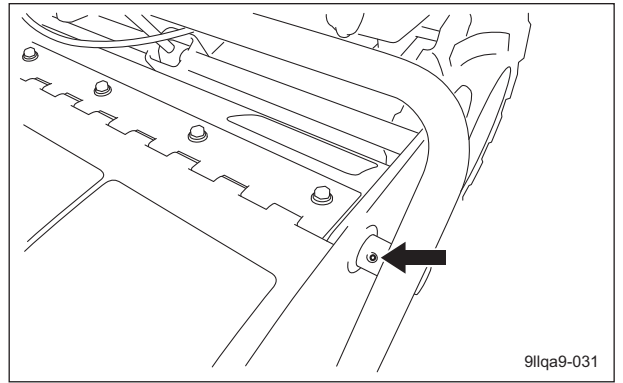
	部位	注油箇所数
1	前輪アーム支点部	2
2	テンションレバー部	3
3	ナイフテンション中間軸レバー部	1

1. 前輪アーム支点部
左右に 1 か所ずつあります。
前輪左側



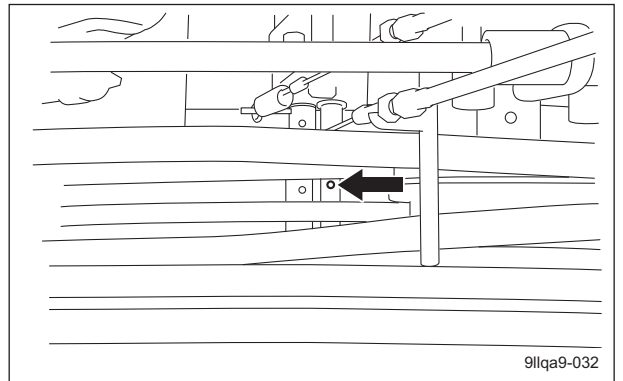
注油位置_002

前輪右側



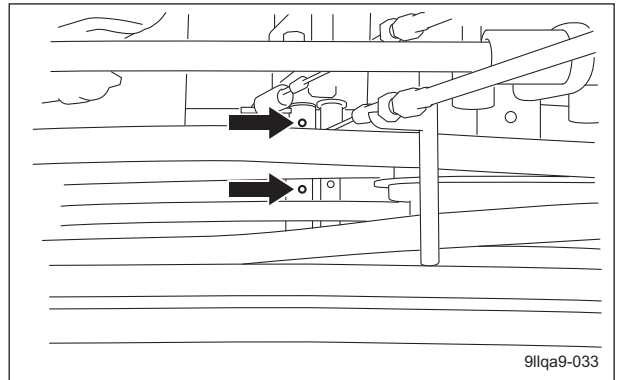
注油位置_003

2. テンションレバー部
テンションレバー部に 3 か所あります。
ナイフテンションレバー



注油位置_004

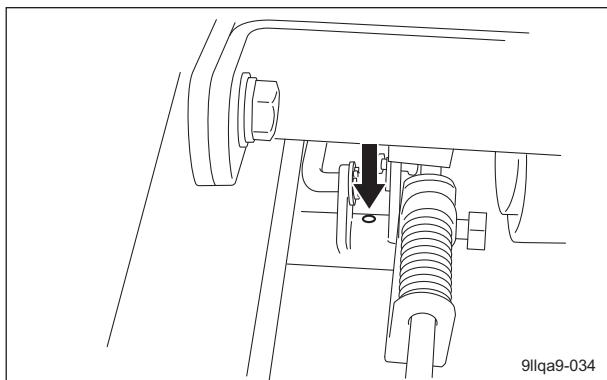
走行テンションレバー



注油位置_005

メンテナンス

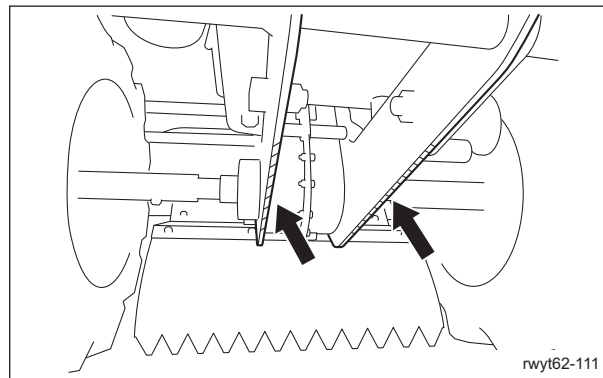
3. ナイフテンション中間軸レバー部



注油位置_006

ジャッキアップポイント	
1	ミッションフレーム部

1. ミッションフレーム部



ジャッキアップポイント_002

ジャッキアップ

ジャッキアップについて

⚠ 警告

タイヤ交換などの整備や修理を行う場合は、必ず輪止めなどをして、機械が動かないようにしてください。

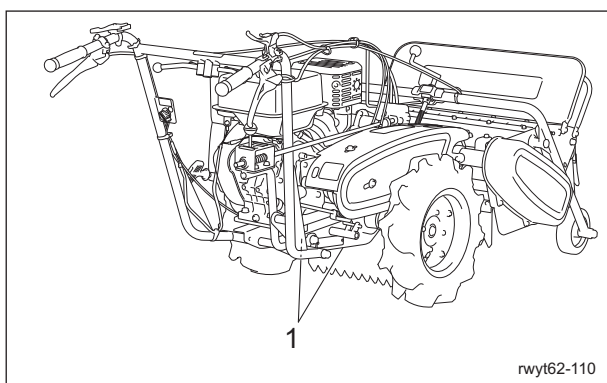
機械をコンクリートなどの堅い平らな床に確実に駐車し、機械をジャッキアップする前に安全作業の妨げになる障害物を取り除いてください。必要に応じ、適切なチェンブロックやホイスト、およびジャッキを使用してください。持ち上げている機械は、ジャッキスタンドや適切なブロックを使用し、確実に支えてください。ジャッキスタンドや適切なブロックで機械を確実に支えられていない場合は、機械が動いたり、落ちたりするおそれがあります。人身事故の原因となります。

この機械をジャッキアップする場合は、ジャッキアップポイントに記載してある位置で行ってください。

指示された位置以外では、ジャッキアップしないでください。

フレームや部品が破損するおそれがあります。

ジャッキアップポイント



ジャッキアップポイント_001

メンテナンスの方法

ナイフの反転

注意

ナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

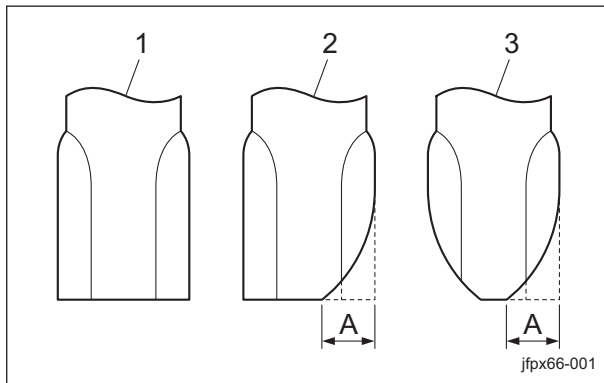
注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

注意

ナイフ軸 Assy は高速回転します。
バランスが崩れると異常振動が出て事故や故障の原因になったり、ケガをするおそれがあります。

ナイフは両面刃がついてあり、片面消耗した場合は反転して使用することができます。
片面消耗したナイフを取り外し、反対向きに取り付けて使用してください。
工場出荷時、ナイフ軸 Assy はバランスを取ってあります。
ナイフ軸 Assy に振動が出ていない場合は、同じ位置にナイフを取り付けてください。
ナイフ反転の基準は、以下のとおりです。



ナイフの反転_001

1	ナイフ (新品)
2	ナイフ (反転時期)
3	ナイフ (交換時期)
A	15 mm (0.59 in)

ナイフの交換

注意

ナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

注意

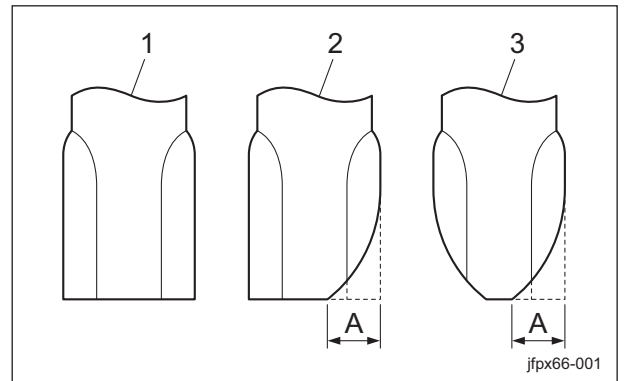
刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

注意

ナイフ軸 Assy は高速回転します。
バランスが崩れると異常振動が出て事故や故障の原因になったり、ケガをするおそれがあります。

消耗したナイフでの作業は効率が悪く、バランスが崩れる原因となります。
消耗したナイフを取り外し、新品のナイフに交換してください。
工場出荷時、ナイフ軸 Assy はバランスを取ってあります。
ナイフの交換は、原則として全数新品に交換してください。
やむを得ず一部のナイフを交換する場合は、必ず左右相対になるように交換してください。
ナイフの交換の基準は、以下のとおりです。

1. ナイフが曲がった場合。
2. ナイフが折損した場合。
3. ナイフが磨耗した場合。



ナイフの交換_001

1	ナイフ (新品)
2	ナイフ (反転時期)
3	ナイフ (交換時期)
A	15 mm (0.59 in)

メンテナンス

ナイフの取り外し

⚠ 注意

ナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

⚠ 注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

⚠ 注意

ボルトを緩めるとナイフが落下するおそれがありますので、十分注意して作業してください。

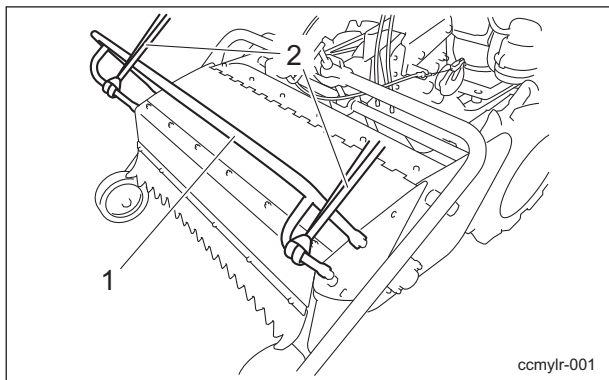
⚠ 注意

機械前部を浮かせて作業するときは落下するおそれがあります。
確実に機械をサポートしてください。

重要

ワイヤーロープは十分強度のあるものを使用してください。

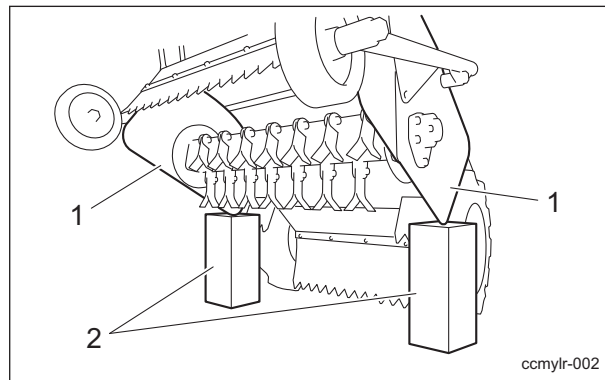
1. 防護板をホイスなどでつり上げて機械前部を浮かせてください。



ナイフの取り外し_001

1	防護板
2	ワイヤーロープ

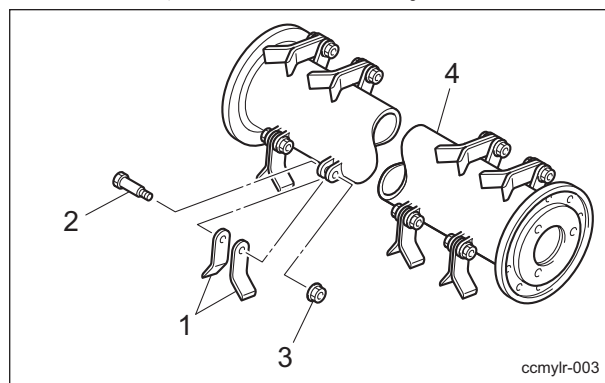
2. 左右のナイフフレーム部をブロックなどで支えてください。



ナイフの取り外し_002

1	ナイフフレーム
2	ブロック

3. さらばね付ナット、取付ピンを取り外してください。
4. ナイフを取り外してください。



ナイフの取り外し_003

1	ナイフ
2	取付ピン
3	さらばね付ナット
4	ナイフ軸

ナイフの取り付け

注意

ナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

注意

ナイフ軸 Assy は高速回転します。
バランスが崩れると異常振動が出て事故や故障の原因になったり、ケガをするおそれがあります。

注意

機械前部を浮かせて作業するときは落下するおそれがあります。
確実に機械をサポートしてください。

重要

ワイヤーロープは十分強度のあるものを使用してください。

重要

さらばね付ナット、取付ピンは、変形がある場合とナイフを新品に交換した場合は、新品に交換してください。

参考：

さらばね付ナットは、脱着を繰り返すと本来の緩み止めの機能が得られなくなります。

重要

取付ピン（さらばね付ナット）の締め付けトルクは、19 N-m（193.7 kgf-cm）です。

重要

取付ピンは、取り外す前と同じ向きに取り付けてください。

取り付けは、取り外しの逆の方法で行ってください。

ナイフ軸 Assy のバランス取り

注意

ナイフは刃物です。
手足を切るおそれがありますので、取り扱いには十分気をつけてください。

注意

刃物に触れる場合は、手を切るおそれがありますので、手袋を着用してください。

注意

ナイフ軸 Assy は高速回転します。
バランスが崩れると異常振動が出て事故や故障の原因になったり、ケガをするおそれがあります。

工場出荷時、ナイフ軸 Assy はバランスを取ってあります。

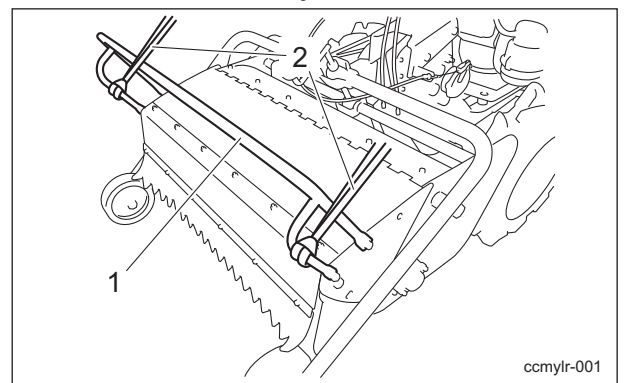
ナイフ軸 Assy のバランス取りは、必ずお買い求めの販売店または、弊社に依頼してください。
ナイフ軸 Assy のバランス取りは、知識や技術のない人が行くと、事故や故障またはケガの原因になります。

タイヤの脱着

前輪タイヤ

タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

1. 防護板をホイストなどでつり上げて機械前部を浮かせてください。

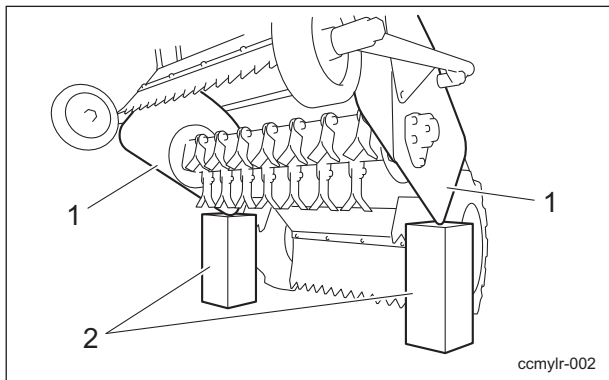


前輪タイヤ_001

1	防護板
2	ワイヤーロープ

メンテナンス

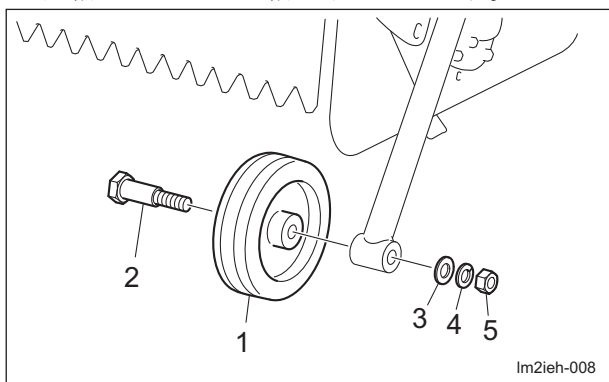
2. 左右のナイフフレーム部をブロックなどで支えてください。



前輪タイヤ_002

1	ナイフフレーム
2	ブロック

3. ナットを緩めます。
4. 車軸ピン、ワッシャー、Sワッシャー、ナットを取り外します。
5. 前輪アームから車輪を取り外します。



前輪タイヤ_003

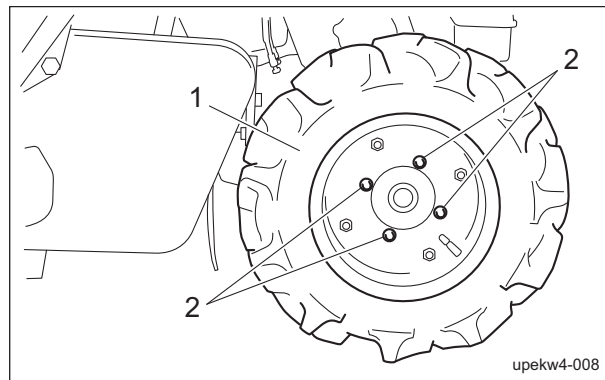
1	車輪
2	車軸ピン
3	ワッシャー
4	Sワッシャー
5	ナット

タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

後輪タイヤ

後輪タイヤの取り外しは、以下の手順で行います。

1. ボルトを緩めます。



後輪タイヤ_001

1	タイヤ
2	ボルト

2. ミッションフレーム部のジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけ、タイヤが浮くまで上げます。
「ジャッキアップポイント」(Page 5-6)
3. ボルトを取り外します。
4. 取り付け座からタイヤを取り外します。

重要

ボルトを締め付ける際は、締め付け順（対角）に締め付けてください。

後輪タイヤの取り付けは、取り外し手順の逆の方法で行います。

ベルトの張り調整

警告

ベルトの調整を行う場合は、必ずエンジンを停止してください。

重要

ベルトの張りは、規定値を確認してください。規定値であるかの確認は、ベルトを数回転させた後に行ってください。

注意

カバーなどを取り外した場合は、必ず元の位置に確実に取り付けてください。カバーなどが取り外されていると、回転物やベルトに触れたり、異物が飛散してケガをするおそれがあります。

使用頻度により、ベルトが緩いと踊ったり、スリップする可能性があります。

また、張り過ぎると損傷が早くなる可能性があります。

必要に応じて調整し、いつも適正な張り具合に保ってください。

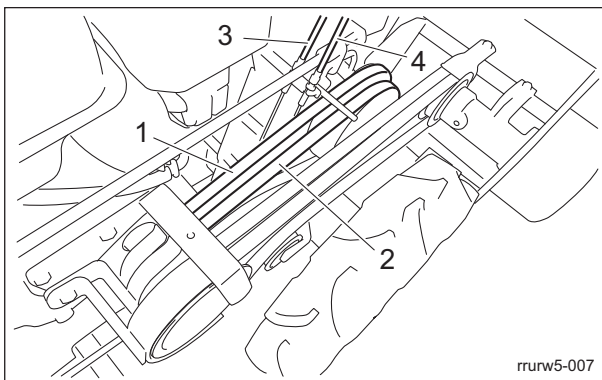
走行用ベルト

低速と高速それぞれの走行クラッチレバーを入れたり切ったりして、以下のことを確認してください。

- ・ 走行クラッチレバーが正常に動くこと。
- ・ フックバネが適正に張られていること。

走行ベルトの張りは、走行テンションワイヤーのアジャストボルトで調整します。

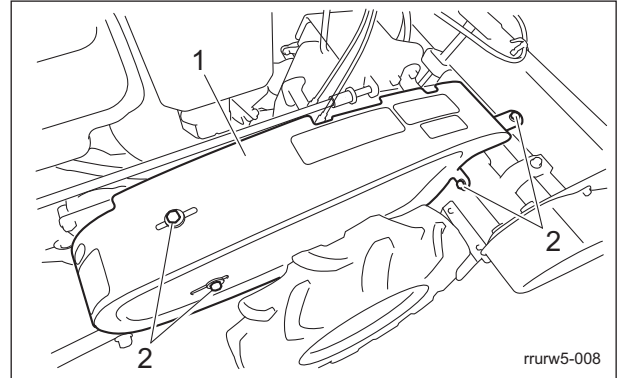
低速と高速それぞれの走行ベルトを調整してください。



走行用ベルト_001

1	走行ベルト（低速）
2	走行ベルト（高速）
3	走行テンションワイヤー（低速）
4	走行テンションワイヤー（高速）

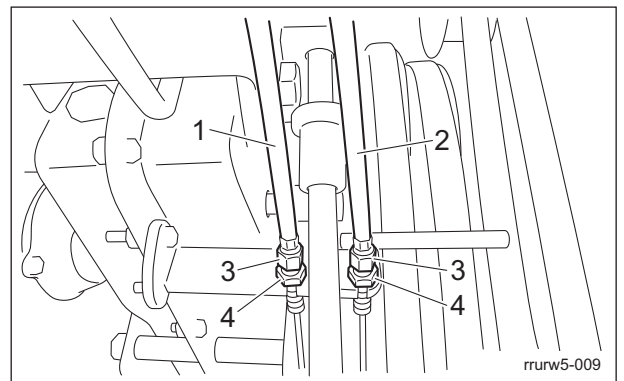
1. ボルトを取り外してください。
2. ベルトカバーを取り外してください。



走行用ベルト_002

1	ベルトカバー
2	ボルト

3. 走行クラッチレバーを「入」の位置にしてください。
4. 走行テンションワイヤーのナットを緩めてください。



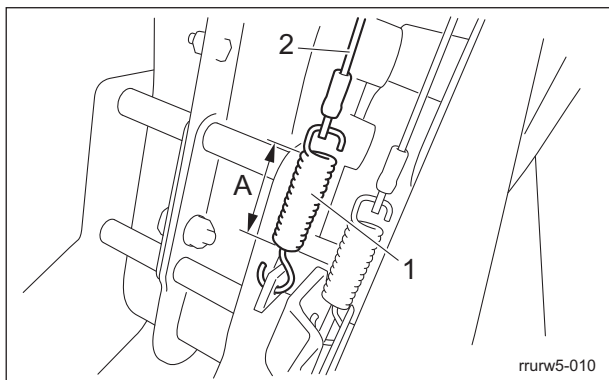
走行用ベルト_003

1	走行テンションワイヤー（低速）
2	走行テンションワイヤー（高速）
3	アジャストボルト
4	ナット

メンテナンス

5. フックバネのコイル部分の長さが 44.0 - 47.0 mm (1.73 - 1.85 in) になるようにアジャストボルトで調節してください。

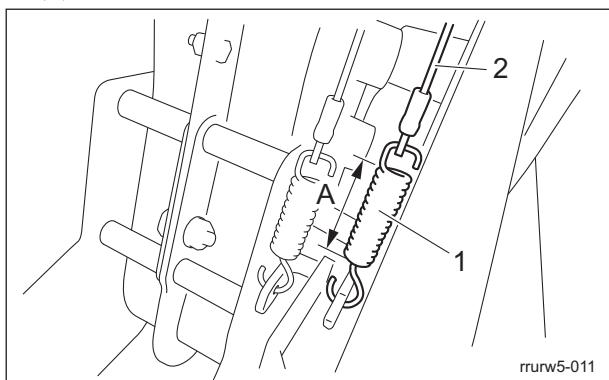
低速側



走行用ベルト_004

1	フックバネ
2	走行テンションワイヤー (低速)
A	44.0 - 47.0 mm (1.73 - 1.85 in)

高速側



走行用ベルト_005

1	フックバネ
2	走行テンションワイヤー (高速)
A	44.0 - 47.0 mm (1.73 - 1.85 in)

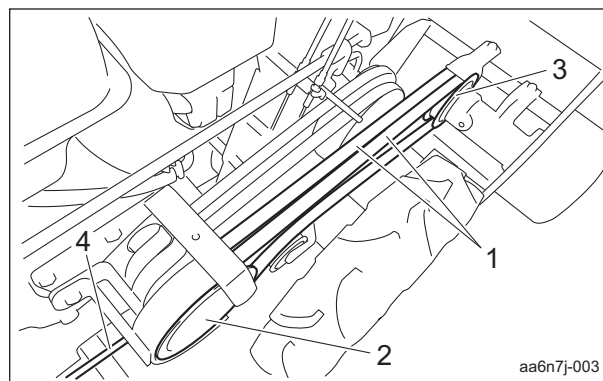
6. 走行ワイヤーのナットを締め付けてください。
7. ベルトカバーを取り付けてください。

ナイフベルト (エンジン - 中間軸)

ナイフクラッチレバーを入れたり切ったりして、以下のことを確認してください。

- ・ ナイフクラッチレバーが正常に動くこと。
- ・ テンションスプリングが適正に張られていること。

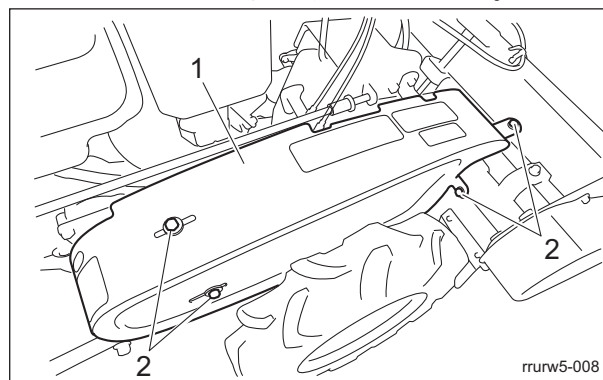
エンジンプーリーと中間軸プーリーにかけてあるナイフベルトの張りは、ナイフクラッチロッドの伸縮で調整します。



ナイフベルト (エンジン - 中間軸)_001

1	ナイフベルト
2	エンジンプーリー
3	中間軸プーリー
4	ナイフテンションロッド

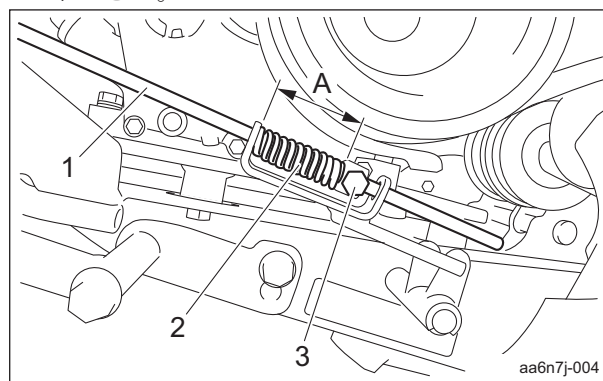
1. ボルトを取り外してください。
2. ベルトカバーを取り外してください。



ナイフベルト (エンジン - 中間軸)_002

1	ベルトカバー
2	ボルト

3. ナイフクラッチレバーを「入」の位置にしてください。
4. ボルトを緩め、テンションスプリングの長さを調整してください。
テンションスプリングの長さが 52.0 - 55.0 mm (2.05 - 2.17 in) になるように調整してください。



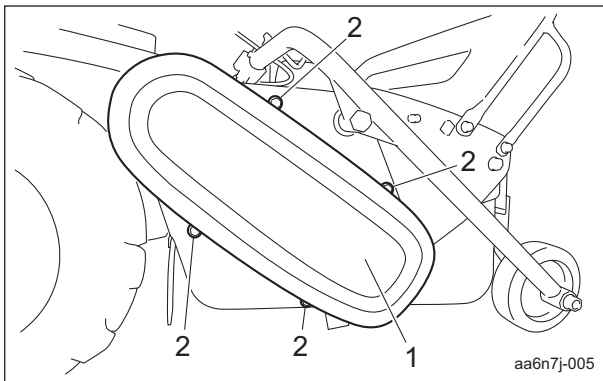
ナイフベルト (エンジン - 中間軸)_003

1	ナイフテンションロッド
2	テンションスプリング
3	ボルト
A	52.0 - 55.0 mm (2.05 - 2.17 in)

5. ボルトを締め付けてください。
6. ベルトカバーを取り付けてください。

ナイフベルト（中間軸 - ナイフ軸）

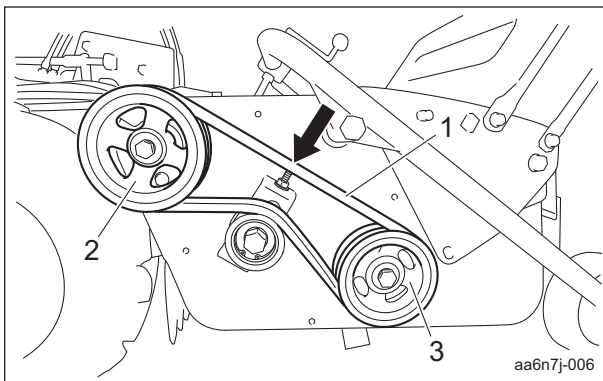
1. ボルトを取り外してください。
2. ナイフベルトカバーを取り外してください。



ナイフベルト（中間軸 - ナイフ軸）_001

1	ナイフベルトカバー
2	ボルト

3. 中間軸プーリーとナイフ軸プーリーにかけてあるナイフベルトの張り具合を確認してください。
ベルトの張りは、ベルトのプーリー間の中央（イラストの矢印部）を指で軽く 25 N (2.5 kgf) で押さえて 5.0 - 10.0 mm (0.20 - 0.39 in) たわむ程度であれば適正です。

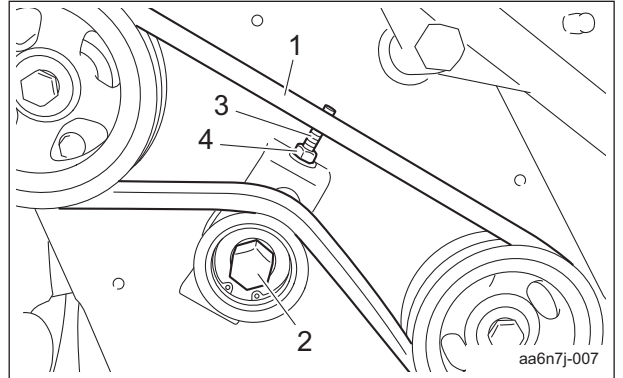


ナイフベルト（中間軸 - ナイフ軸）_002

1	ナイフベルト
2	中間軸プーリー
3	ナイフ軸プーリー

4. ベルトの張りが適正でない場合は、以下の手順でベルトの張りを調整してください。
[1] テンションピンを緩めてください。

- [2] テンションプーリー調節ボルトのナットを緩めてください。
- [3] ベルトの張りが規定値になるようにナットを締め付けて、テンションプーリーの位置を調整してください。
- [4] テンションピンを締め付けて、再度ベルトの張りを確認してください。
- [5] ナットをロックしてください。
- [6] ナイフベルトカバーを取り付けてください。



ナイフベルト（中間軸 - ナイフ軸）_003

1	ナイフベルト
2	テンションピン
3	テンションプーリー調節ボルト
4	ナット

ブレーキの調整

警告

ブレーキワイヤーが切れると、この機械は停止不能となり大変危険です。
亀裂、損傷などがある場合は、直ちに交換してください。

注意

ブレーキをかけても、ブレーキの効きが悪くなったら、ブレーキワイヤーの調整をしてください。

重要

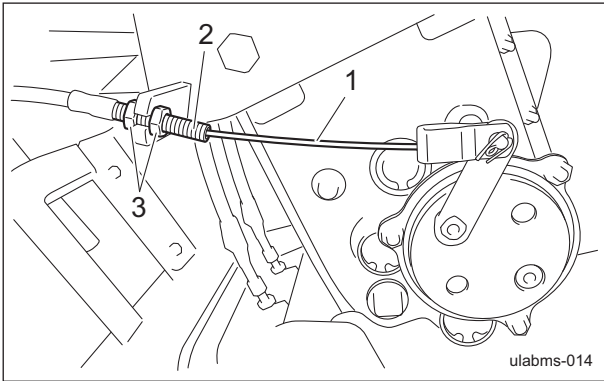
ワイヤーの引きすぎは、ブレーキシューの異常磨耗や焼き付きの原因になります。

ブレーキは、ブレーキワイヤーのアジャストボルトで調整してください。

1. ブレーキレバーをロックしてください。
2. ロックナットを緩め、アジャストボルトをブレーキが効く位置に調整し、ロックナットを確実に締め付けてください。

メンテナンス

- ブレーキレバーのロックを解除したときに、ブレーキシューがブレーキドラムに当たっていないことを確認してください。ブレーキの引きずりを防止します。
- ブレーキレバーを握り、ロックできるか確認してください。



ブレーキの調整_001

1	ブレーキワイヤー
2	アジャストボルト
3	ロックナット

操向クラッチの調整

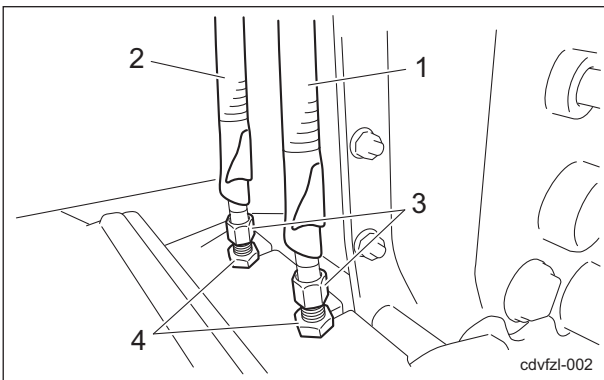


注意

ワイヤーの引きすぎは、クラッチ破損の原因になります。

操向クラッチは、操向クラッチワイヤーのアジャストボルトで調整してください。左右それぞれの操向クラッチを調整してください。

- ロックナットを緩め、アジャストボルトを左に回してクラッチワイヤーを張り、クラッチが効く位置に調整し、ロックナットを確実に締め付けてください。



操向クラッチの調整_001

1	クラッチワイヤー (左)
2	クラッチワイヤー (右)
3	アジャストボルト
4	ロックナット

- 操向クラッチレバーを握り、操向クラッチが効くことを確認してください。

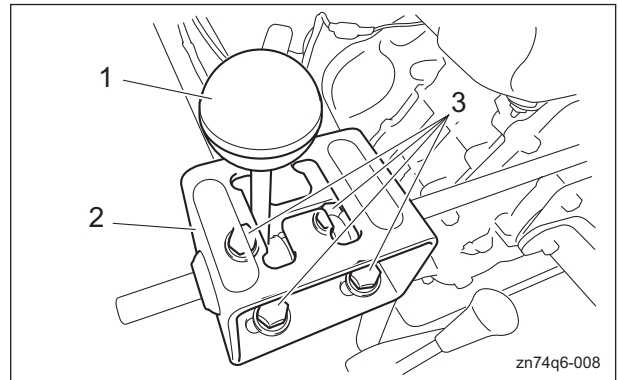
チェンジロッドの調整



注意

ロッドの調整を行う際は、必ずエンジンを停止させて行ってください。

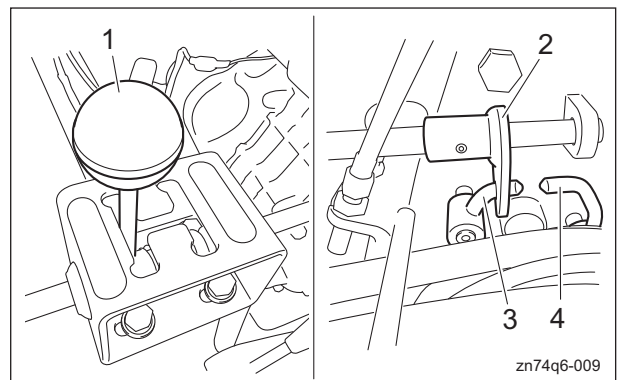
- チェンジレバーガイドのボルトを緩めてください。
- チェンジレバーの位置を前後に動かしたとき、チェンジ中間シフターの穴が前後のチェンジ移動金に入るようにチェンジレバーガイドの位置を調整してください。



チェンジロッドの調整_001

1	チェンジレバー
2	チェンジレバーガイド
3	ボルト

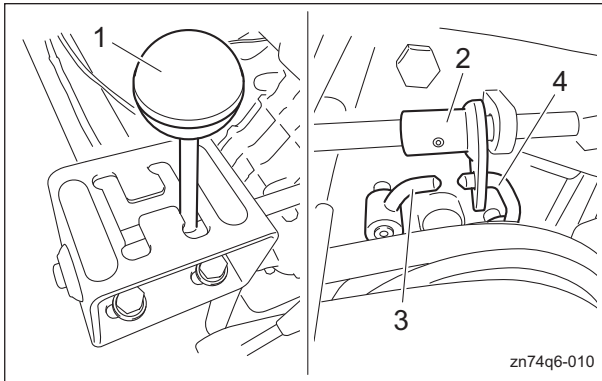
チェンジレバー位置：1・2・N



チェンジロッドの調整_002

1	チェンジレバー
2	チェンジ中間シフター
3	シフター移動金 (後)
4	シフター移動金 (前)

チェンジレバー位置：3・R



チェンジロッドの調整_003

1	チェンジレバー
2	チェンジ中間シフター
3	シフター移動金 (後)
4	シフター移動金 (前)

- チェンジレバーガイドのボルトを締め付けてください。

エアクリーナーの交換

エアクリーナーエレメントが汚れていると、エンジン不調の原因となります。エンジンの寿命を延ばすために適切な時期に交換をするように心掛けてください。

- エアクリーナーエレメントの交換時期は、以下のとおりです。
 - エアクリーナーエレメントは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。
 - 汚れの多い場合は、規定時間に達していても交換してください。
- エアクリーナーエレメントの交換は、エアクリーナーの清掃と同様の手順で行ってください。
「エアクリーナーの清掃」(Page 4-4)

エンジンオイルの交換

⚠ 注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

エンジンオイルを交換する場合は、エンジンオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

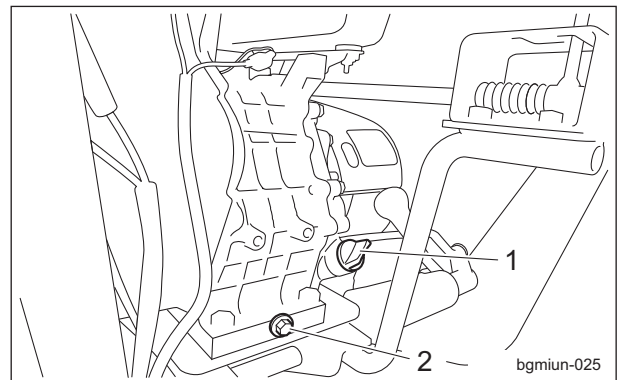
エンジンオイルは、API サービス分類の SE 級以上で、使用環境（気温）に合わせた SAE 粘度のオイルを使用してください。

重要

オイルレベルゲージは、確実にねじ込んでください。

エンジンオイルが汚れていたり、埃の多い環境で運転した場合や、エンジンを高負荷あるいは高温で運転した場合は、オイル交換の回数を増やしてください。

- 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを停止してください。
- エンジンオイルが温まっている間にドレンプラグを取り外し、エンジンオイルを容器に抜き取ってください。
- ドレンプラグをエンジンに再度取り付けてください。
- オイルレベルゲージを取り外してください。
- オイル注入口から新しいエンジンオイルを入れてください。
エンジンオイル量は、1.0 dm³ (1.0 L) です。
- エンジンを水平な状態にし、注入口からオイルレベルゲージをねじ込まずにエンジンオイル量を調べてください。



エンジンオイルの交換_001

1	オイルレベルゲージ (オイル注入口)
2	ドレンプラグ

- オイルレベルゲージで量を確認した後、不足していれば追加してください。
- オイルレベルゲージを確実にねじ込んでください。
- 機体の下を確認し、油漏れが無いことを確認してください。

メンテナンス

ミッションオイルの交換

注意

熱いオイルが皮膚に付くと火傷をするおそれがありますので、十分注意してください。

重要

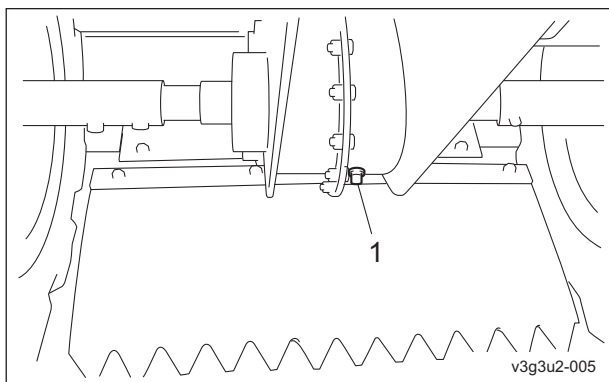
ミッションオイルを交換する場合は、ミッションオイルを容器で受け、地域の法律に従って適切に処分してください。

重要

ミッションオイルは、自動車用ギヤオイルで、SAE 粘度分類の 90 番を使用してください。

ミッションオイルは、メンテナンススケジュールに従って交換してください。

1. 機械を平らな場所に移動させ、エンジンを止めてください。
2. ミッションオイルが温まっている間に排油栓を取り外し、ミッションオイルを容器に抜き取ってください。

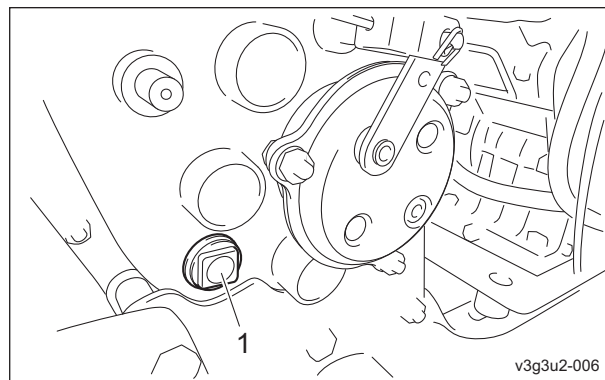


ミッションオイルの交換_001

1 排油栓

3. 排油栓に新しいシールテープを巻き直し、ミッションに再び取り付けてください。

4. 注油栓を取り外してください。



ミッションオイルの交換_002

1 注油栓

5. 注油口より、新しいミッションオイルを入れてください。
ミッションオイル量は、1.4 dm³ (1.4 L) です。
6. 注油口より、ミッションオイルが既定量まで入っていることを確認してください。
7. 注油栓を取り付けてください。
8. 機体の下を確認し、油漏れが無いことを確認してください。

長期保管

長期保管について

- 泥や草屑、油汚れなどをきれいに落としてください。
- 各注油箇所へグリース注入、塗布と注油をしてください。

BARONESS[®]
Quality on Demand



株式会社 共 栄 社
〒442-8530 TEL (0533) 84-1221
愛知県豊川市美幸町1-26 FAX (0533) 84-1220